

平安京左京八条四坊八町跡・御土居跡

2016年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京八条四坊八町跡・御土居跡

2016年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、道路整備工事に伴う平安京跡・御土居跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

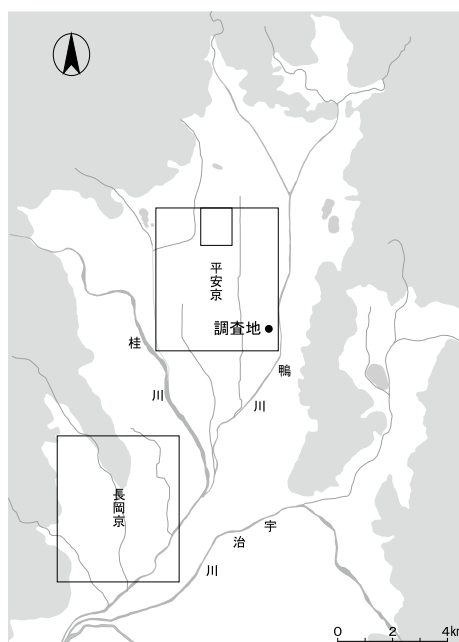
平成28年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡・御土居跡（文化財保護課番号 13 H 574）
- 2 調査所在地 京都市下京区小稲荷町ほか地内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2015年10月13日～2015年11月25日
- 5 調査面積 165㎡
- 6 調査担当者 近藤章子
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「五条大橋」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 近藤章子
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 遺跡の位置と環境	3
(2) 周辺の調査	4
3. 遺 構	11
(1) 基本層序	11
(2) 1 区	11
(3) 2 区	18
(4) 補足調査	20
4. 遺 物	22
(1) 遺物の概要	22
(2) 土器類	22
(3) その他の遺物	27
5. ま と め	29

図 版 目 次

図版1	遺構	1	1・2区第1面全景（北から）
		2	2区第2面全景（南から）
図版2	遺構	1	1区第3面全景（北から）
		2	2区第3面全景（北西から）
		3	1区園池15（北東から）
		4	2区路面34（南東から）
図版3	遺構	1	2区土坑1（北から）
		2	2区タタキ2（北西から）
		3	2区井戸3（南から）
		4	補足調査 石列（南から）

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	調査前全景（南から）	2
図4	調査地風景（東から）	2
図5	重機掘削風景（南から）	2
図6	調査風景（南から）	2
図7	周辺調査位置図（1：2,500）	5
図8	1区西壁断面図（1：50）	12
図9	2区東壁・北壁断面図（1：50）	13
図10	第1面平面図（1：150）	14
図11	第2面平面図（1：150）	15
図12	第3面平面図（1：150）	16
図13	1区園池15実測図（1：50）	17
図14	1区土坑23・56実測図（1：50）	18
図15	2区土坑1実測図（1：50）	19
図16	2区タタキ2実測図（1：50）	19
図17	2区井戸3実測図（1：50）	20
図18	補足調査 石列実測図（1：80）	21
図19	園池15出土土器実測図（1：4）	23
図20	土坑32出土土器実測図（1：4）	24
図21	溝43出土土器実測図（1：4）	25
図22	その他遺構出土土器拓影及び実測図（1：4）	25
図23	泥面子拓影及び実測図（1：2）	26
図24	土製品実測図（1：2）	27
図25	石製品実測図（1：4）	28
図26	水路付近拡大図	29
図27	土塁想定図（1：1,200）	30

表 目 次

表 1	周辺調査一覧表	6
表 2	遺構概要表	11
表 3	遺物概要表	22
表 4	土製品一覧表	32

平安京左京八条四坊八町跡・御土居跡

1. 調査経過

本調査は、崇仁北部第一地区区画整理事業（崇仁北部第四住宅地区改良事業）道路整備工事に伴う発掘調査である。調査は京都市より委託を受け、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）の指導の下、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所（以下「京都市埋文研」という）が実施した。

調査地点は、平安京左京八条四坊八町跡及び御土居跡に相当する。南約150m地点での調査（図7-72）では平安時代や鎌倉時代の遺構・遺物が検出されており、西約25m地点での調査（図7-107）では付け替えられた東西方向の御土居の土墨基底部が検出されている。今回の調査では平

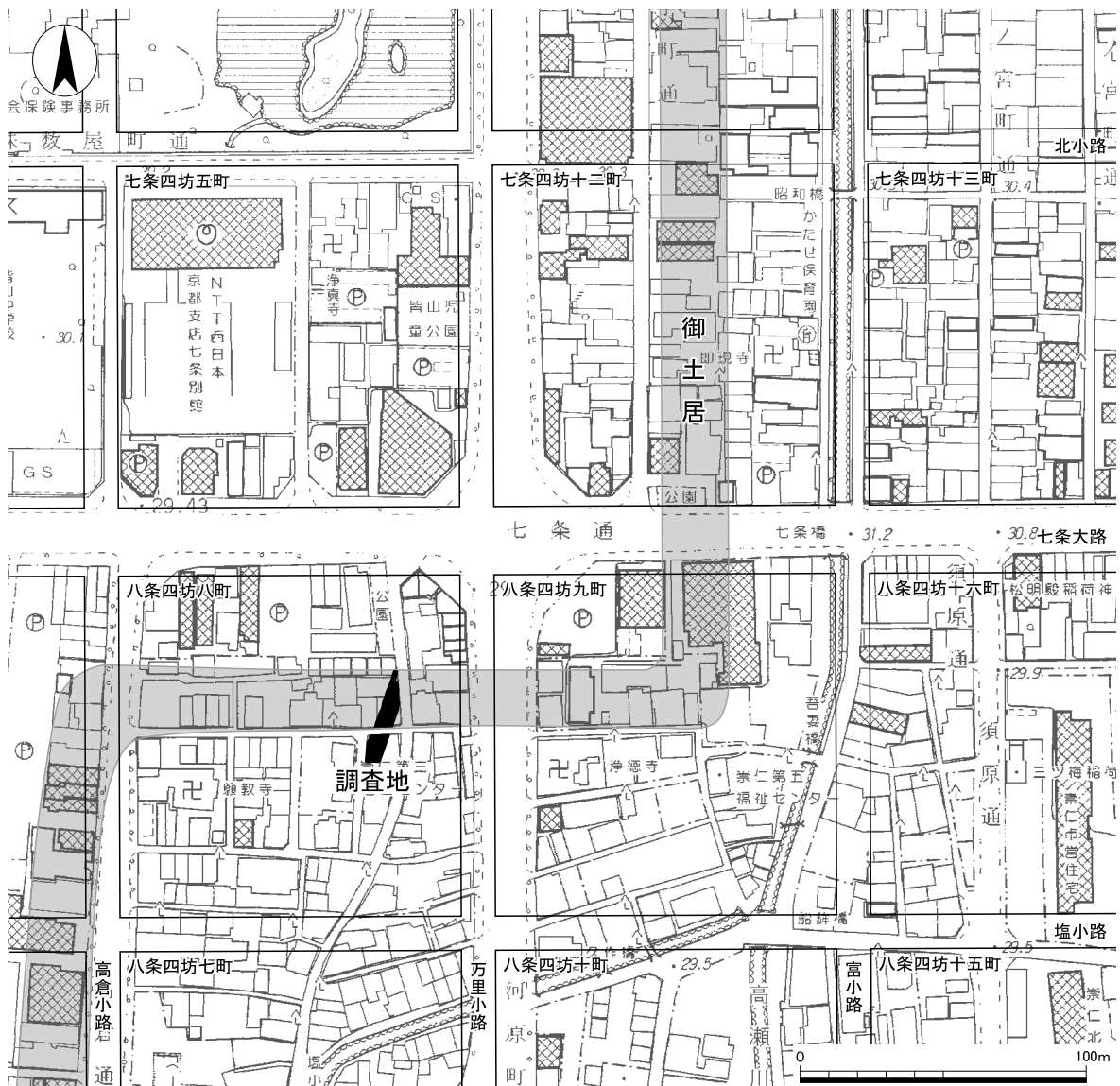


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

安時代、鎌倉時代の遺構・遺物及び御土居に関する遺構の検出を目的とした。

調査は、重機による表土の掘削から開始した。調査区は道路建設予定地に合わせ、北東から南西方向へ約33m、幅約5.5mの範囲に設定した。調査対象地内には、東西方向に道路が横断しており、多数の埋設管により遺構面が攪乱を受けていることから、東西道路箇所は調査対象外とし、道路を挟んで、調査区北部を1区、南部を2区とした。また、1・2区調査終了後、1区に東接する地点で石列を検出したことから、補足的に確認し図面を作成した。

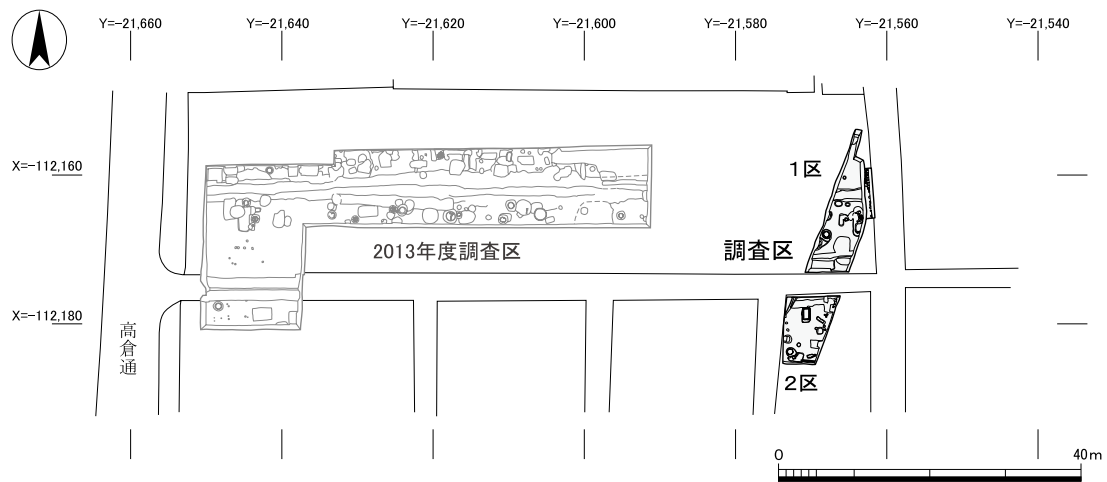


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)



図3 調査前全景 (南から)



図4 調査地風景 (東から)



図5 重機掘削風景 (南から)



図6 調査風景 (南から)

調査は3面に分け遺構掘削を行い、各調査面において図面類作成、全景・個別遺構写真撮影などの記録作業を行った。調査では、江戸時代末期の土坑、井戸、園池、溝、路面などを検出した。基盤層となる砂礫層は鴨川の氾濫堆積によるものであるが、下層遺構の有無を確認するため、調査区南部東壁沿いに断割調査を実施した。その結果、遺構は確認できなかったが、砂礫層からは中世から江戸時代の遺物が出土した。

残土は調査区の西側に仮置きし、調査終了後、埋め戻しを行った。

調査の進展に伴い適宜、文化財保護課の臨検を受けた。また、当事業における検証委員である龍谷大学の國下多美樹教授、同志社大学の若林邦彦准教授の視察を受けた。

2. 位置と環境

(1) 遺跡の位置と環境

調査地点は、JR京都駅から北東へ約500m、七条通の南、高倉通の東に位置する。平安京内では南東部に位置し、左京八条四坊八町にあたり、八町内の中央やや北東寄りに位置する。東方約600mの地点には鴨川が南流する。鴨川の西岸域は、氾濫原で砂礫層が厚く堆積する地域である。

周辺には奈良時代以前の遺跡は知られていない。また、高倉小路から東側の七町から十六町内には、平安時代の居住者などを記述した史料はない¹⁾。西側の三坊一帯には平安時代末期から中世にかけて手工業を中心とした八条院町、七条大路より北には七条町が形成され、手工業生産や経済活動の一大拠点となる。調査地点西側には、平安時代中期に活躍した仏師定朝とその一族が室町時代まで彫刻に励んだ七条仏所があったとされ、定朝の邸宅跡が寄進されて時宗の金光寺が創建されたといわれている。金光寺は遊行寺または七条道場とも称され、広く信仰を集めた。江戸時代にはこの寺の東に火葬場（火屋）が設けられるが、明治には市街地に近いことを理由に廃止され、寺は明治41年に祇園円山の長楽寺に合併された²⁾。

安土桃山時代には、天下統一をなし遂げた豊臣秀吉が京都の都市改造を行った。聚楽第の造営、方広寺の建立、禁裏の修造と公家町の形成、寺町の造営、新道による町割の改造などである。その総仕上げとして、天正19年（1591）に洛中を土塁と堀とで囲む御土居が築造される。御土居は外敵の防御と鴨川などの水害から市街地を守る堤防として築かれた。範囲は、西は紙屋川、北は鷹ヶ峰、東は鴨川、南は九条に及び、東西3.5km、南北8.5km、総延長22.5kmに及ぶ。これにより、京都は洛中と洛外が明確に分けられることとなった。京内外の出入口となる開口部は、当初は十口あったとされる。

江戸時代になり世の中が安定し、防御施設としての機能が薄れ、開口部の新設、土塁の削平や堀の埋め立てなどが行われた。江戸時代に描かれた御土居に関する絵図などの研究から、調査地点周辺の御土居が付け替えられたものであることが指摘されている³⁾。それによると築造当初の御土居は現在の六条あたりで北東から南西方向に斜行し、七条通と高倉通の交差点に向かい、高倉通で南

北方向に向きを変える。後にこの箇所³⁾の御土居は取り払われ、河原町通の東側を南下し、七条通の南側で西折する御土居に造り替えられたとされる。調査地点はこの造り替えられた東西方向の御土居部分にあたるのが想定できる。この御土居付け替えは寛永18年（1641）に造営された涉成園との関係が指摘されている。涉成園は徳川家光から東本願寺に敷地が寄進されたもので、真宗大谷派第13代宣如の隠居所として造営された。庭園は石川丈山の作といわれ、昭和11年（1936）に国指定の名勝となっている。

御土居の付け替えと共に高瀬川の流路変更も行われ、現在の河原町通西、七条通にあった船溜まりは御土居の内側に取り込まれることになり、「内浜」の呼称の由来となる。また、内浜の周辺には材木問屋や倉庫などが並び、現在も材木町、納屋町という町名が残る。

調査地点付近は正徳3年（1713）には天部村領の耕作地であったが、文化12年（1815）に六条村が天部村より皮張り場として一部を借り受けている。その後、天保14年（1843）には六条村大西組が立村され、御土居の土塁南側は宅地化される⁴⁾。

明治9年（1876）の「改定京都区分一覽之図」には七条通の南側には御土居が描かれている。明治10年（1844）には神戸—京都間の鉄道が開通し、現在の京都駅の北側付近に初代京都駅（七条停車場）が造られる。その後、路面電車、京阪電気鉄道などが相次いで開通する。大阪と京都の物資の輸送手段は鉄道へと志向し、内浜は大正元年（1921）頃には埋め立てられ、高瀬川の水運機能は大正9年（1920）に廃止される。調査地点東側の蛇行する南北道は、内浜と高瀬川を繋ぐ水路であったが、内浜埋め立て後、道路となった。明治維新後、近代化が急速に進む中、調査地付近の土塁も削平され宅地化されていく⁵⁾。

（2）周辺の調査（図7、表1）

左京七条四坊三～六・十一・十二町、八条四坊一・二・七～十町の調査について地点図、一覽表を掲載した。立会調査のうち、遺構面まで達しない調査地点は省略した。

古墳時代以前の遺構は、八条四坊一町の21調査では弥生時代後期の遺物包含層が、11調査では古墳時代後期の溝が検出され、溝から多数の遺物が出土した。八条四坊二町の27調査では古墳時代前期の流れ堆積が検出されている。

平安時代の遺構は、七条四坊三・四町（3・38・46・78調査）、八条四坊一町（10・11・19・61・104・105調査）、八条四坊七町（72調査）で検出された。中でも、78調査では平安時代中期から末期の池跡、61調査では平安時代の井戸・土坑・溝、72調査では砂礫層上面で平安時代後期の遺構が検出されている。104調査では平安時代後期から近世に至る遺構面が、105調査では平安時代前期・中期・後期の遺構、遺物が検出されている。

中世の遺構は、七条四坊四町（12・46・49・78・84・94調査）、七条四坊十二町（37調査）、八条四坊一町（17・60・61・104・105調査）、八条四坊二町（1・54・56・61・64・88調査）、八条四坊七町（72調査）で検出された。46・49調査では鎌倉時代の井戸、94調査では室町時代後期の流路・土坑・柱穴列・溝が検出されている。61調査では鎌倉時代・室町時代の各時期の遺構が多

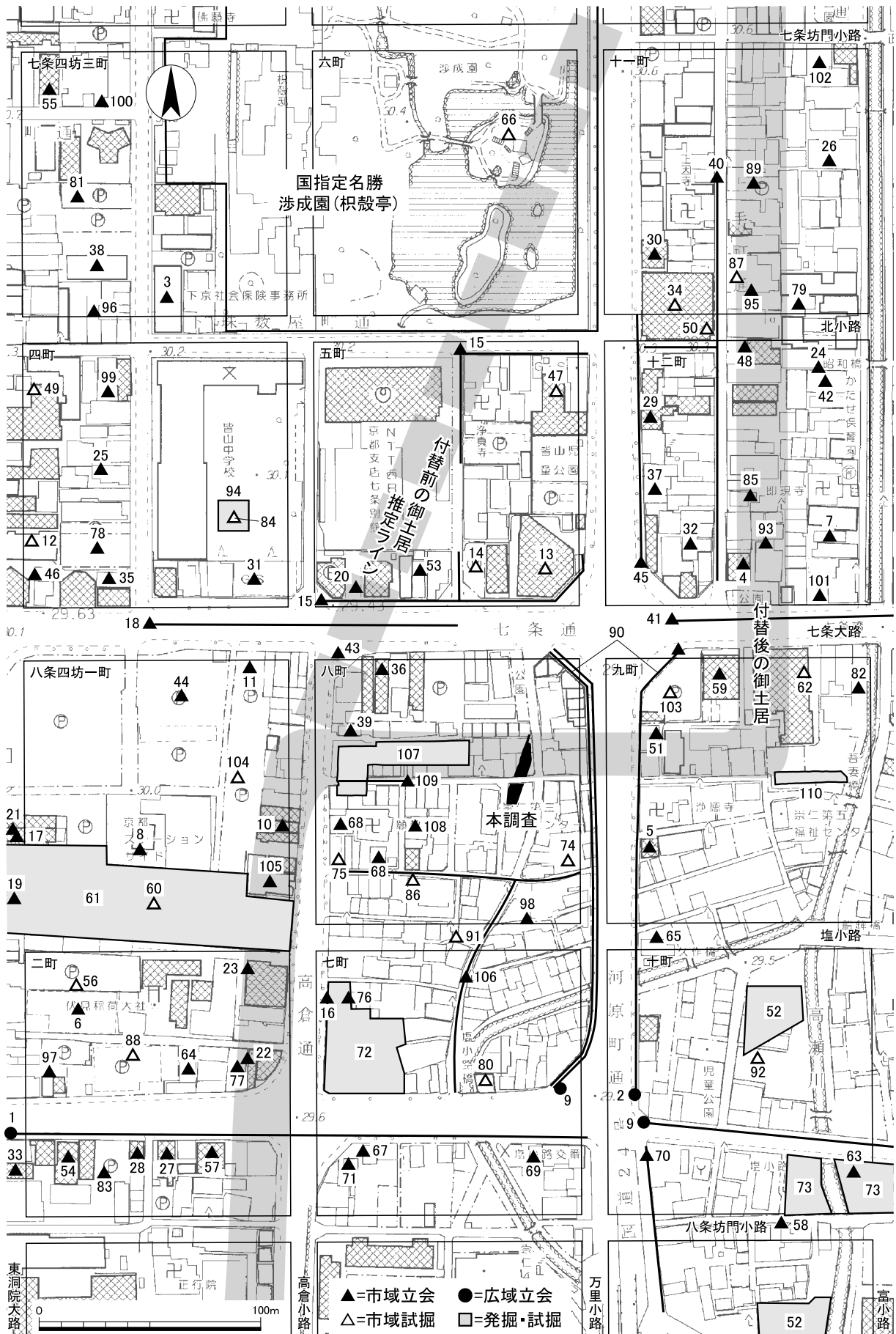


図7 周辺調査位置図 (1 : 2,500)

表1 周辺調査一覧表

No.	遺跡名	方法	調査日	調査概要	調査記号	文献
1	八条四坊二町	広域立会	1978/10/1～1979/3/31	-0.8～-1.0mで室町の井戸、溝。-1.4mで鎌倉の井戸	78HK-KS	1
2	八条四坊十町	広域立会	1978/10/1～1979/2/28	遺構、遺物なし	78HK-KS	1
3	七条四坊三町	立会	1979/9/12	-1.1mで遺構検出、平安～江戸の遺物包含層	79-284	2
4	七条四坊十二町	立会	1979/9/12	時期不明の遺物包含層、下層は氾濫堆積	79-285	2
5	八条四坊九町	立会	1980/6/26	-0.6mで砂礫層、-0.95mで耕作土層、以下砂礫層	80HL63	3
6	八条四坊二町	立会	1981/1/23	-1.0mで平安～鎌倉の遺構	80HL157	3
7	七条四坊十二町	立会	1981/2/27	-0.9mで近世～近代の流れ堆積	80HL176	3
8	八条四坊一町	立会	1981/11/3	-0.3mで江戸の遺物包含層	81HL157	4
9	八条四坊七町、十町	広域立会	1982/11/1～1983/3/31	遺構なし。近世～近代の遺物を検出	82HK-G-015-24	5
10	八条四坊一町	立会	1983/4/2・4	-0.85mで多量の骨を含む江戸の土坑、-1.35mで平安後期の遺物包含層	83HL2	6
11	八条四坊一町	立会	1983/10/15～17	-0.3m以下、平安前期～江戸の遺物包含層、古墳後期の溝。溝から多量の遺物出土	83HL164	6
12	七条四坊四町	試掘	1984/4/13	-0.5m以下、室町後期の遺物包含層	84HL12	7
13	七条四坊五町	試掘	1984/5/25	-1.1mで江戸の遺物包含層	84HL56	7
14	七条四坊五町	試掘	1984/11/26	-0.54m以下、江戸以降の鴨川の氾濫堆積	84HL227	7
15	七条大路	立会	1984/12/5	-1.18m以下、時期不明の流れ堆積	84HL236	7
16	八条四坊七町	立会	1985/2/1	-1.2mで江戸の遺物包含層	84HL279	8
17	八条四坊一町	立会	1985/10/26	-0.9mで室町の遺物包含層、-1.5mで鎌倉・室町の土坑	85HL223	8
18	七条大路	立会	1985/11/21	-0.95m以下、時期不明の路面	85HL248	8
19	八条四坊一町	立会	1986/7/8	-1.1m以下、時期不明の東洞院大路路面、-1.36mで平安末期～鎌倉の落込	86HL96	9
20	七条四坊五町	立会	1986/7/31	-0.52m以下、時期不明の流れ堆積	86HL112	9
21	八条四坊一町	立会	1986/9/4・5	-0.63m以下、弥生、時期不明の遺物包含層	86HL139	9
22	八条四坊二町	立会	1987/4/18	-0.3m以下、時期不明の流れ堆積	87HL18	10
23	八条四坊二町	立会	1987/7/11	-0.5m以下、時期不明の流れ堆積	87HL98	10
24	七条四坊十二町	立会	1987/8/7	-0.55m以下、時期不明の流れ堆積	87HL133	10
25	七条四坊四町	立会	1987/9/9	-0.9mで時期不明の流れ堆積	87HL161	10
26	七条四坊十一町	立会	1988/3/7	-0.84m以下、時期不明の流れ堆積	87HL308	11
27	八条四坊二町	立会	1988/3/24	-0.78mで古墳前期の流れ堆積	87HL320	11
28	八条四坊二町	立会	1988/5/16	-0.65m以下、時期不明の流れ堆積	88HL33	11
29	七条四坊十二町	立会	1988/11/22	-0.8m以下、鴨川の氾濫堆積	88HL149	11
30	七条四坊十一町	立会	1989/2/14	-0.55m以下、時期不明の流れ堆積	88HL191	12
31	七条四坊四町	立会	1989/9/18	-1.24m以下、鎌倉の流れ堆積	89HL96	12
32	七条四坊十二町	立会	1989/10/16	-0.77m以下、時期不明の流れ堆積	89HL112	12
33	八条四坊二町	立会	1989/11/29	-0.3m以下、時期不明の流れ堆積	89HL149	12
34	七条四坊十一町	試掘	1990/4/16	-1.6m以下、平安～江戸の遺物を含む流路堆積	90HL14	13
35	七条四坊四町	立会	1990/6/5	-0.9mで江戸の池状堆積	90HL41	13
36	八条四坊八町	立会	1990/6/25	-1.25m以下、流れ堆積	90HL51	13
37	七条四坊十二町	立会	1991/8/19・20	-1.19m以下、室町後期の遺物包含層	91HL169	14
38	七条四坊三町	立会	1991/10/21～24	-1.55m以下、平安後期の遺物包含層、時期不明の氾濫堆積	91HL243	14
39	八条四坊八町	立会	1991/12/10	盛土のみ	91HL298	14
40	七条四坊十一町	立会	1992/4/13	-下0.17m以下、時期不明の路面、遺物包含層	92HL3	15
41	七条大路	立会	1992/5/2～9/28	-1.48m以下、時期不明の遺物包含層、流れ堆積	92HL51	15
42	七条四坊十二町	立会	1992/8/31	-0.43m以下、鴨川の氾濫堆積	92HL187	15
43	七条大路	立会	1992/12/11～1993/2/5	-0.4m以下、七条大路路面、鎌倉～江戸の遺物包含層	92HL308	16

No.	遺跡名	方法	調査日	調査概要	調査記号	文献
44	八条四坊一町	立会	1993/4/21	盛土のみ	93HL24	16
45	七条四坊十一町、十二町	立会	1994/8/24～	-0.92m以下、江戸の遺物包含層	94HL216	17
46	七条四坊四町	立会	1995/9/6～8	-1.85m以下、平安の流れ堆積、平安中期～鎌倉の遺物包含層、流れ堆積、鎌倉の井戸	95HL237	18
47	七条四坊五町	試掘	1996/2/2	-0.7mで鴨川の氾濫堆積	(5)	19
48	七条四坊十二町	立会	1996/8/19・22	-0.43m以下、流れ堆積	96HL198	20
49	七条四坊四町	試掘	1997/9/12	-2.4mで鎌倉の井戸	(40)	21
50	北小路	試掘	1997/6/10	鴨川の氾濫により遺構、遺物発見できず	(41)	21
51	八条四坊九町	立会	1997/4/23	-0.45m以下、砂礫の流れ堆積	97HL45	22
52	八条四坊十町、十一町	試掘	1998/3/11～16	-1.0m以下、砂礫層、平安京の遺構は検出できず	97HK-BP	23
53	七条四坊五町	立会	1998/8/5	-1.0m以下、氾濫堆積	98HL171	24
54	八条四坊二町	立会	1998/10/26・28	-0.75mで中世の遺物包含層、-1.1m以下、流れ堆積	98HL248	24
55	七条四坊三町	立会	1999/8/6・10	-1.63m以下、灰黄褐色粗砂の地山	99HL167	25
56	八条四坊二町	試掘	2000/2/7	-0.96m以下で平安～室町の遺構、遺物を多数検出。発掘調査に切替	(7)	26
57	八条四坊二町	立会	2000/4/18～5/16	0.76mで近世の遺物包含層	00HL19	27
58	八条坊門小路	立会	2000/5/1・8	-0.8m以下、氾濫堆積	00HL28	27
59	八条四坊九町	立会	2000/7/31～	-1.35m以下、灰黄褐色砂礫の流れ堆積	00HL134	27
60	八条四坊一町	試掘	2001/1/22	-1.6mで中世の柱穴、土坑、溝などを検出。発掘調査に切替	(4)00H397	28
61	八条四坊一町塩小路	発掘	2001/3/12～6/23	平安の井戸、土坑、溝。鎌倉の柱穴、井戸、土坑、溝。室町の柱穴、井戸、土坑、溝。桃山の土坑、溝。江戸の墓跡		29
62	八条四坊九町	試掘	2001/11/5	-0.25～0.87mで砂礫層、上面で中近世の土坑を検出	(40)01H264	28
63	八条四坊十町	立会	2001/6/15～27	-0.9m以下、流れ堆積	01HL83	30
64	八条四坊二町	立会	2001/6/26・27	-0.85mで鎌倉の遺物包含層	01HL95	30
65	塩小路	立会	2001/1/7	-0.5mで近世の遺物包含層	01HL310	31
66	七条四坊六町	試掘	2002/7/24	涉成園成立以前は河川の氾濫堆積。一部で時期不明の遺物包含層を認める	(32)14N3	32
67	八条四坊七町	立会	2002/4/6	-0.7mで江戸末期の遺物包含層	02HL22	31
68	八条四坊八町	立会	2002/7/4～9	-1.15mで江戸末期の遺物包含層	02HL107	31
69	八条四坊七町	立会	2002/7/26～	-0.42mで時期不明の流れ堆積	02HL136	31
70	八条四坊十町、十一町	立会	2002/9/19～10/18	-1.25mで時期不明の流れ堆積	02HL199	31
71	八条四坊七町	立会	2003/7/14・15	-0.25mで氾濫堆積	03HL124	33
72	八条四坊七町	発掘	2003/9/16～12/26	各砂礫層上面で平安後期～江戸の遺構・遺物を検出。江戸時代の旧高瀬川を検出	03HK-BQ4	34
73	八条四坊十町	(試掘)	2005/3/1～26	-1.0m前後で近世～近代の耕作土、それ以下は砂礫層	04HK-BQ5	35
74	八条四坊八町	試掘	2005/10/14	-0.6m以下、幕末頃の焼土層か	(41)05H278	36
75	八条四坊八町	試掘	2005/12/28	-1.15m以下、砂礫の河川氾濫堆積	(42)05H481	36
76	八条四坊七町	立会	2005/6/6・7	-1.1mで近世の遺物包含層	05HL88	37
77	八条四坊二町	立会	2005/9/21～10/14	-1.58m以下、褐色砂礫の地山	05HL217	37
78	七条四坊四町	立会	2006/1/30～2/10	No.2:-0.8m以下、鎌倉前期の遺物包含層、平安後期の湿地状堆積。No.4:-0.58mで江戸前期の遺物包含層、-0.8mで鎌倉中期の遺物包含層、-1.17mで平安後期の湿地状堆積。No.5:-0.22mで鎌倉前期の遺物包含層、-0.5mで平安末期の湿地状堆積、-0.91mで平安中期～末期の池跡	05HL377	38
79	七条四坊十一町	立会	2006/3/6～8	-1.0mで黄褐色砂礫の氾濫堆積	05HL425	38
80	八条四坊七町	試掘	2006/9/6	氾濫堆積である地山で近世以後の2時期の高瀬川流路を検出	06H246	39
81	七条四坊三町	立会	2006/9/6	-0.35m、近世以降の遺物包含層	06HL256	38
82	八条四坊九町	立会	2006/10/16・18	-0.53mで近世以降の遺物包含層、-1.4m以下、にぶい黄橙色砂礫の地山	06HL332	38

No.	遺跡名	方法	調査日	調査概要	調査記号	文献
83	八条四坊二町	立会	2006/10/5～ 2007/1/15	-0.8mで時期不明の遺物包含層、-1.6mで暗緑灰色粘土の 湿地状堆積	06HL316	40
84	七条四坊四町	試掘	2007/10/11・12	-0.5mで南北方向の近世石組溝。その下層で中世柱穴など。 発掘調査を指導	(48)07H245	41
85	七条四坊十二町	立会	2007/7/24～8/3	No.1:-0.58mで江戸前期の遺物包含層。No.5:-1.05m以下、 黄褐色細砂の地山	07HL182	40
86	八条四坊八町	試掘	2008/1/16	-1.3mまで近世遺物包含層、以下地山	(7)07H454	42
87	七条四坊十一町	試掘	2008/8/25	-0.86mで砂礫の地山	(46)08H199	42
88	八条四坊二町	試掘	2008/5/14・15	調査地西半を中心に中世土坑群を検出。発掘調査に切替	(47)07H527	42
89	七条四坊十一町	立会	2008/4/11～18	-1.0m以下、にぶい黄褐色粗砂の地山	08HL20	43
90	八条四坊九町他	立会	2008/4/23～ 7/2	-1.6m以下、暗褐色砂礫の地山	08HL35	43
91	塩小路	試掘	2009/1/23	-1.0～1.2mで砂礫の洪水堆積	(5)08H426	44
92	八条四坊十町	試掘	2009/1/16・19	-1.1mで粗砂の地山を確認	(6)08H439	44
93	七条四坊十二町	立会	2009/3/2～9	No.3:-0.5mで近世以降の遺物包含層。No.4:-1.27m以下、 にぶい黄褐色砂礫の地山	08HL393	45
94	七条四坊四町	発掘	2008/6/16～ 8/22	室町後期の流路、土坑、柱穴列、溝。桃山～江戸前期の溝、 土坑、柱穴。江戸後期の土坑、礎石列、井戸	08HK-WO1	46
95	七条四坊十一町	立会	2009/7/13～21	No.2:-0.47mで時期不明の落込	09HL141	45
96	七条四坊三町	立会	2009/8/24～	平安前期～中期の落込	09HL197	45
97	八条四坊二町	立会	2010/7/20～ 8/11	No.1:-0.86mで近世以降の整地層、-1.1m以下、暗オリ ーブ色砂礫の地山。No.2:-0.4mで近世以降の溝	10HL126	47
98	八条四坊八町	立会	2011/5/9・16	-1.4m以下、黄褐色砂礫の地山	11HL33	48
99	七条四坊四町	立会	2011/5/25～31	No.1:-1.0mで江戸の整地層、-1.25mで江戸の土坑。No.2: -0.57mで近世以降の遺物包含層、-1.02mで石が多量に詰 まった平安後期の土坑。No.3:-0.75mで中世の遺物包含層	11HL54	48
100	七条四坊三町	立会	2011/7/11～14	-0.3mで江戸の土坑、-1.46m以下、オリーブ褐色粗砂の地山	11HL108	48
101	七条四坊十二町	立会	2011/8/11～18	-1.05m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山	11HL156	48
102	七条四坊十一町	立会	2011/8/26	-1.4mで近代以降の氾濫堆積	11HL171	48
103	八条四坊九町	試掘	2012/3/27	-1.1mで自然堆積の砂礫層	(9)11H482	49
104	八条四坊一町	試掘	2012/11/5・6	-0.5m以下、安土桃山～平安後期に至る遺構面が残存。 発掘調査を指導	(50)12H405	49
105	八条四坊一町	立会	2012/6/22～27	No.1:-0.65mで黄褐色細砂の地山を切って時期不明の落込み。 No.2:-1.66mで平安末期～鎌倉の遺物包含層、-1.75mで黄 褐色粗砂の地山を切って平安中期の落込み。No.3:-1.1mで 平安前期の遺物包含層、-1.4m以下、黄褐色細砂の地山	12HL106	50
106	八条四坊七町	立会	2013/9/24～30 10/1～8	-1.02mで近世以降の遺物包含層。-1.16mでオリーブ灰色 粗砂の氾濫状堆積。-1.35m以下、灰オリーブ色細砂の地山	13HL301	51
107	八条四坊八町	発掘	2013/4/17～ 8/12	江戸時代前期に付け替えられた御土居の土塁基底部を検出	13HK-BZ1	52
108	八条四坊八町	試掘	2014/7/22	-1.0mで近世整地層。-1.1mで洪水由来の砂礫が堆積	13H574	53
109	八条四坊七町、 八町	立会	2014/2/19～21 ・24	-1.3mで灰オリーブ色砂泥を検出。遺構、遺物は検出でき ず	13H512	54
110	八条四坊九町	発掘	2015/8/17～ 9/25	調査区東半部で高瀬川の舟入、西半部で江戸後期の建物跡	15HK-BZ2	55

※ 方法内の(試掘)は京都市埋文研が実施した発掘調査に準ずる調査である。
調査記号は京都市埋文研と文化財保護課が調査毎に付すものである。

数検出されている。72調査では砂礫層上面で鎌倉時代の井戸が検出された。

近世の遺構は各地で検出される。御土居推定地での調査では、七条四坊十五町の85調査で江戸時代前期の遺物包含層が検出され、御土居関連の遺構である可能性が指摘された。また、八条四坊一町の10調査では骨を多量に含む江戸時代の土坑が検出された。これは南側の61調査で検出されたものと同様、金光寺（七条道場）の墓地に関係する遺構であろう。94調査では高瀬川の内浜の開発に伴う町屋の区画などが検出されている。八条四坊七町の72調査では旧高瀬川の両肩部を検出した。名勝渉成園内の66調査では中島造成時の積土と渉成園造営前の鴨川の氾濫堆積が検出された。この中島は御土居の名残とも言われており、検出した積土が土塁の一部である可能性が考えられている。八条四坊八町の107調査では、江戸時代に付け替えられた御土居の土塁基底部が検出された。堀を伴わず土塁裾部に沿って溝が検出された。その他、流水性の砂礫層などが広範囲で検出されており、いずれも鴨川の旧河道や洪水層であろう。

文献（表1 周辺調査一覧表）

- 1 『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 2 『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和54年度』 京都市文化観光局 1980年
- 3 『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』 京都市文化観光局 1981年
- 4 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和56年度』 京都市文化観光局 1982年
- 5 『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1985年
- 6 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度』 京都市文化観光局 1984年
- 7 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』 京都市文化観光局 1985年
- 8 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』 京都市文化観光局 1986年
- 9 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』 京都市文化観光局 1987年
- 10 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』 京都市文化観光局 1988年
- 11 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』 京都市文化観光局 1989年
- 12 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』 京都市文化観光局 1990年
- 13 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』 京都市文化観光局 1991年
- 14 『京都市内遺跡立会調査概報 平成3年度』 京都市文化観光局 1992年
- 15 『京都市内遺跡立会調査概報 平成4年度』 京都市文化観光局 1993年
- 16 『京都市内遺跡立会調査概報 平成5年度』 京都市文化観光局 1994年
- 17 『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』 京都市文化観光局 1995年
- 18 『京都市内遺跡立会調査概報 平成7年度』 京都市文化市民局 1996年
- 19 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成8年度』 京都市文化市民局 1997年
- 20 『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』 京都市文化市民局 1997年
- 21 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成9年度』 京都市文化市民局 1998年
- 22 『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』 京都市文化市民局 1998年
- 23 永田宗秀「平安京左京八条四坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 24 『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』 京都市文化市民局 1999年
- 25 『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』 京都市文化市民局 2000年
- 26 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成12年度』 京都市文化市民局 2001年

- 27 『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』 京都市文化市民局 2001年
- 28 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成13年度』 京都市文化市民局 2002年
- 29 吉川義彦『平安京跡発掘調査報告 左京八条四坊一町』 関西文化財調査会 2004年
- 30 『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』 京都市文化市民局 2002年
- 31 『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』 京都市文化市民局 2003年
- 32 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成14年度』 京都市文化市民局 2003年
- 33 『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』 京都市文化市民局 2004年
- 34 加納敬二・永田宗秀『平安京左京八条四坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003 - 11 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 35 布川豊治『平安京左京八条四坊跡』『平成16年度 財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 36 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成17年度』 京都市文化市民局 2006年
- 37 『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』 京都市文化市民局 2006年
- 38 『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』 京都市文化市民局 2007年
- 39 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度』 京都市文化市民局 2007年
- 40 『京都市内遺跡立会調査報告 平成19年度』 京都市文化市民局 2008年
- 41 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成19年度』 京都市文化市民局 2008年
- 42 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成20年度』 京都市文化市民局 2009年
- 43 『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』 京都市文化市民局 2009年
- 44 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成21年度』 京都市文化市民局 2010年
- 45 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成21年度』 京都市文化市民局 2010年
- 46 西森正晃『平安京左京七条四坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008 - 6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008年
- 47 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』 京都市文化市民局 2011年
- 48 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』 京都市文化市民局 2012年
- 49 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度』 京都市文化市民局 2013年
- 50 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』 京都市文化市民局 2013年
- 51 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成25年度』 京都市文化市民局 2014年
- 52 近藤章子『平安京左京八条四坊八町跡・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013 - 11 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 2014年
- 53 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成26年度』 京都市文化市民局 2015年
- 54 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』 京都市文化市民局 2015年
- 55 近藤章子『平安京左京八条四坊九町跡・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015 - 11 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 2016年

3. 遺 構

調査対象地は、南北約33m、東西約5.5m、現地表の標高は29.3mある。前述したように対象地を1・2区に分け、調査を進めた。また、調査終了後、1区東道路際についてコンクリート製側溝直下で石列を検出したため、補足調査を実施した。

調査は、1区は2面、2区は3面に分けて行った。第1面は江戸時代末期から明治期の遺構面で、主な遺構には井戸、土坑、園池などがある。第2面は江戸時代末期の遺構面で、主な遺構には水溜土坑などがある。第3面は耕作土層上面に相当する江戸時代後期から末期の遺構面で、主な遺構には溝、土坑、ピットなどがある。

(1) 基本層序

1区の基本的な層序は、地表下0.4～0.6mまで近現代盛土、0.6～0.7mまで10YR4/1褐灰色細砂層（第1面）、0.7～1.0mまで2.5Y3/1+3/2黒褐色細砂層（耕作土・第2面）、1.0m以下、10YR5/3+4/3にぶい黄褐色砂礫層（地山）となる。

2区の基本的な層序は、地表下0.5mまで近現代盛土、以下0.6mまで近世焼土層、0.7mまで10YR3/1+3/2黒褐色細砂層（第1面）、0.8mまで2.5Y3/2黒褐色細砂層（第2面）、1.0mまで2.5Y3/1黒褐色細砂層（耕作土・第3面）、1.1mまで2.5Y4/4オリーブ褐色極細砂～シルト層（近世盛土）、1.1m以下、10YR5/3+4/3にぶい黄褐色砂礫層（地山）となる。砂礫層は断割調査により、標高27.1mまで調査し、さらに下層まで堆積することを確認した。

なお、耕作土層は1区のX=-112,168m付近から2区にかけて検出した土層で、当該地の宅地化前の耕作地として開発されたことを示す土層である。

(2) 1区

第1面（図10、図版1-1）

井戸22、溝43、園池15、土坑32、落込44、高まり60などがある。

園池15（図13、図版2-3） 1区中央の東壁際で検出した、平面形が方形の漆喰で塗り固められたと思われる園池である。中央南半は攪乱により削平される。漆喰の大半は破壊を受けるが、北西隅で検出した焼締陶器播鉢と北接する漆喰は原位置を保つ。規模は南北3.4m、東西1.3m以上、深さ0.68m、東肩口は調査区外へ広がる。池底面の標高は27.93m、播鉢底面の標高は28.27mある。埋土からは江戸時代末期の遺物が多量に出土した。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
江戸時代後期 ～明治初頭	土坑、井戸、ピット、園池、溝、路面、石列	

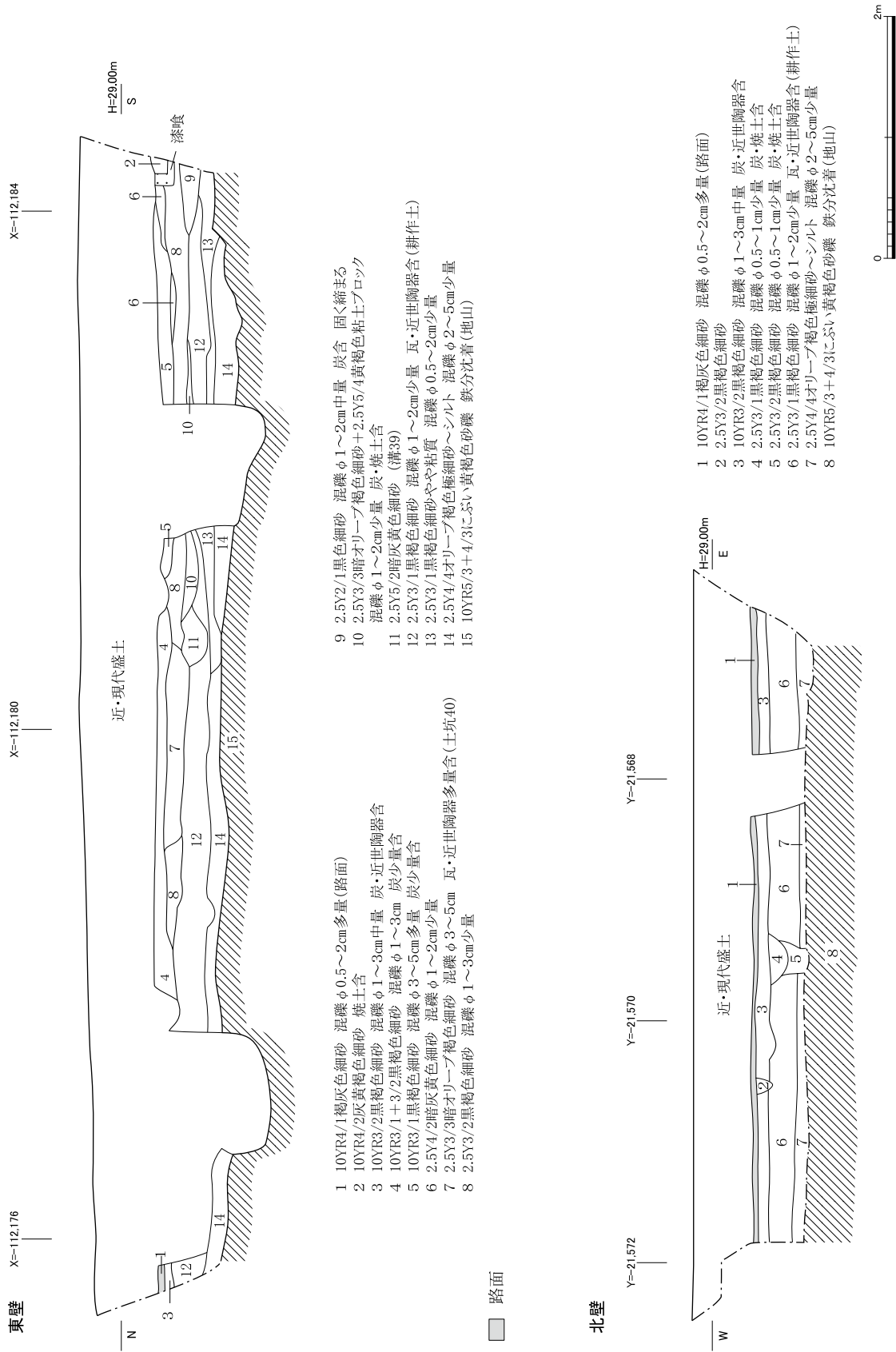


図9 2区東壁・北壁断面図 (1:50)

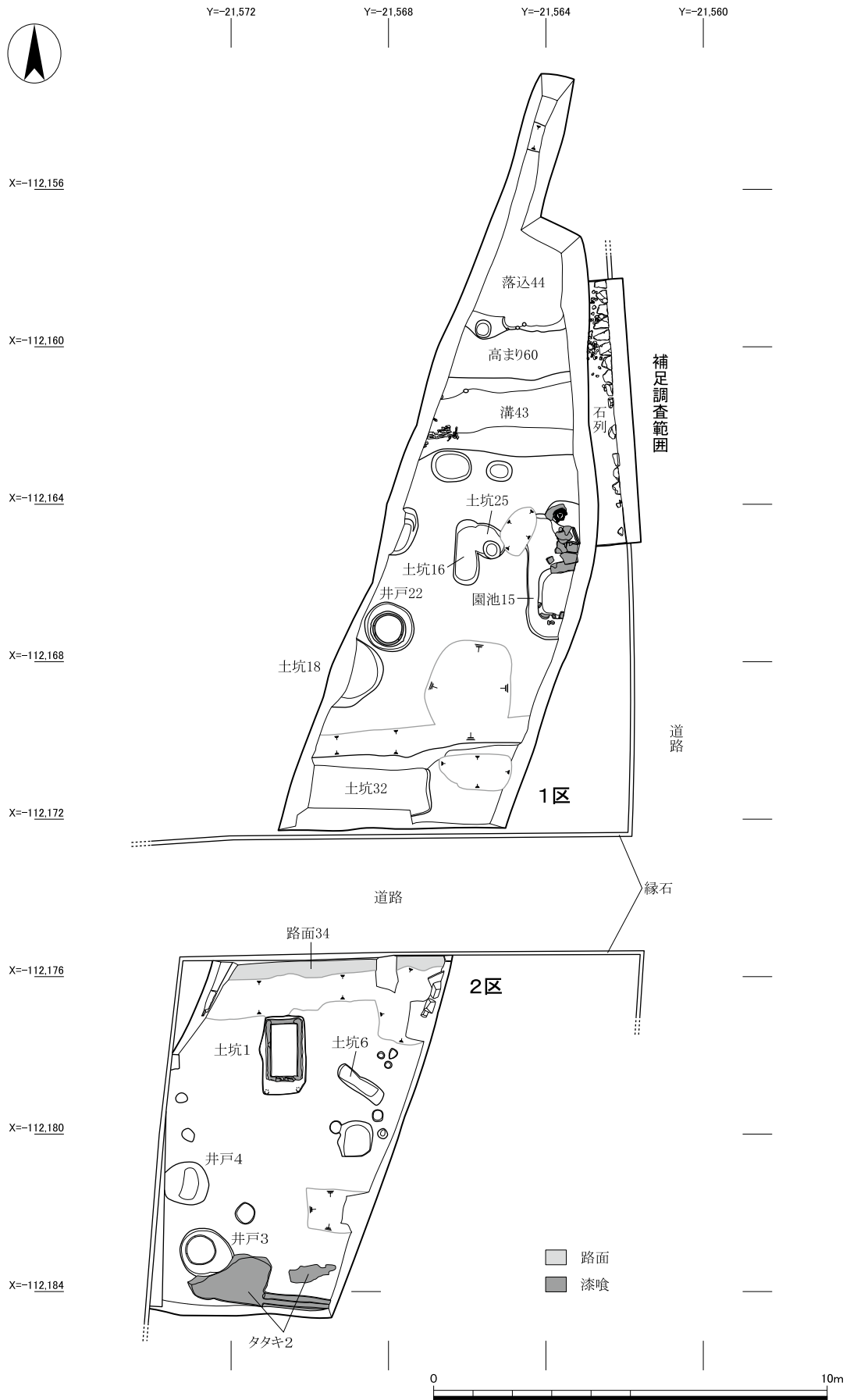


図10 第1面平面図 (1 : 150)

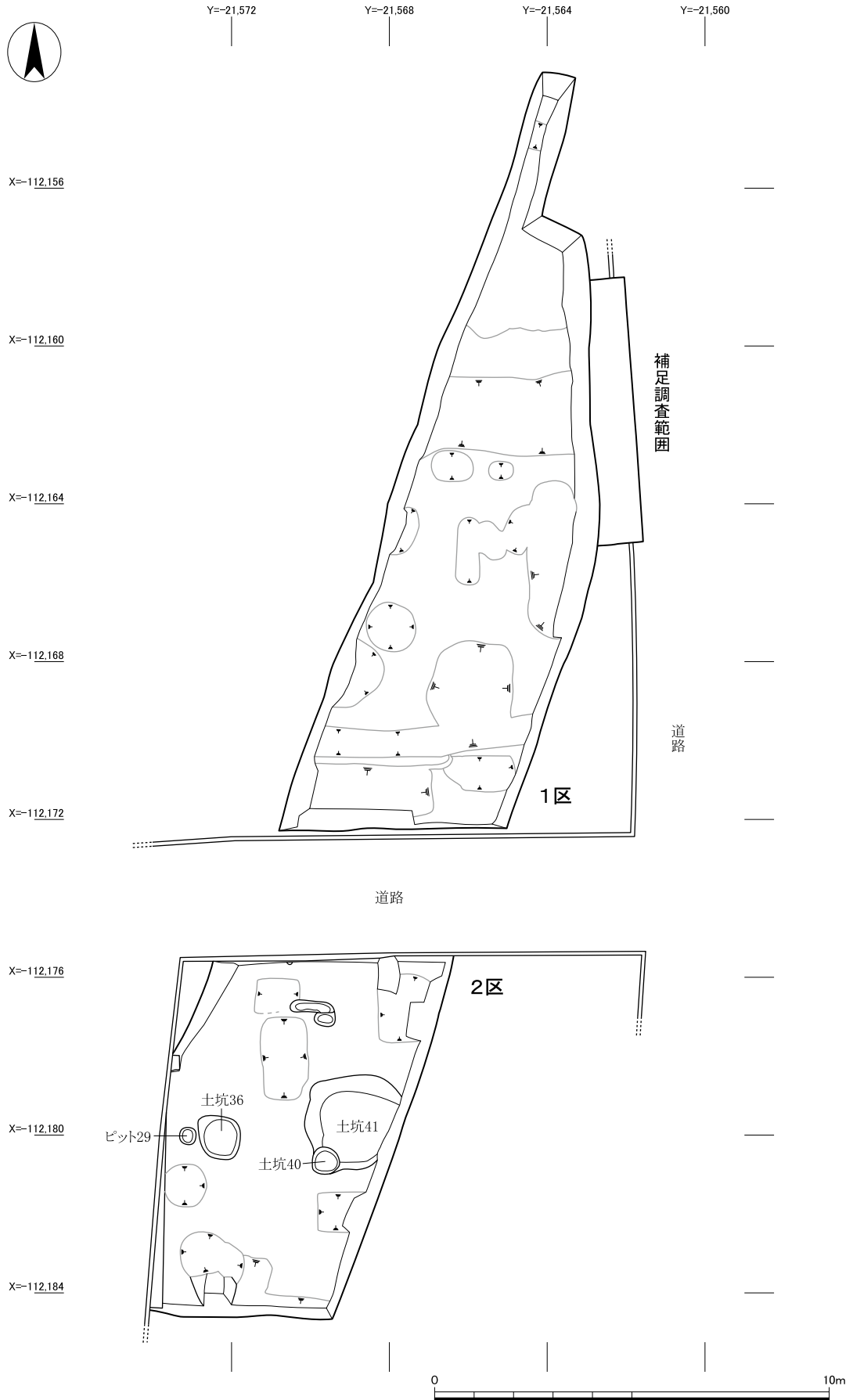


図11 第2面平面図 (1 : 150)

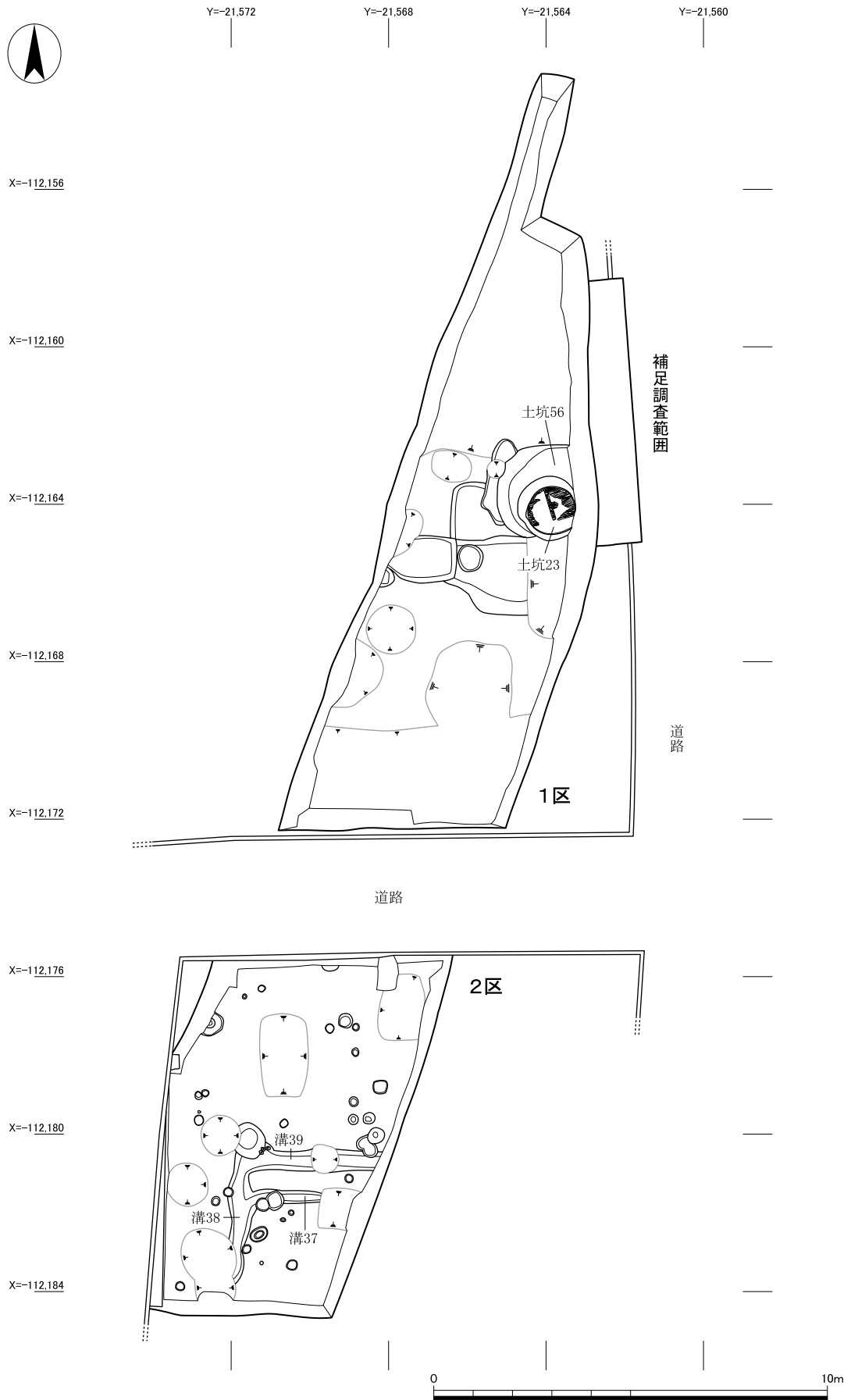


図12 第3面平面図 (1 : 150)

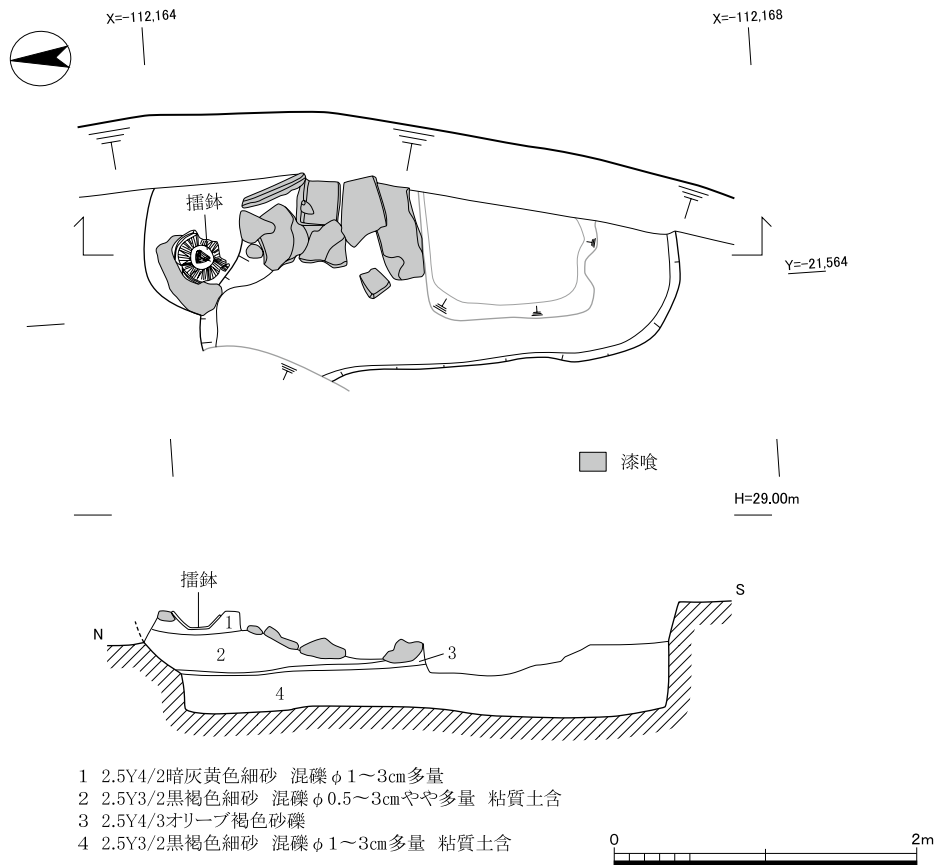


図13 1区園池15実測図(1:50)

井戸22 1区南半の西寄りで見出した、平面形が円形の井戸である。掘形中央に漆喰製の井戸杵を据える。規模は掘形が径1.25m、井戸杵が径0.8m、深さ1.33mある。埋土からは江戸時代末期の遺物とともにセルロイド、ガラス、焼瓦が出土した。

土坑32 1区南端で見出した、平面形が長方形の土坑である。規模は東西5.4m以上、南北1.5m以上、深さ0.53m、西・南肩口は調査区外へ広がる。埋土から多量の遺物が出土した。

溝43 1区中央北寄りで見出した東西方向の溝である。規模は幅1.9m、東西3.3m以上、深さ0.37m、検出面の標高は28.29m、底面の標高は27.94mある。埋土上層は漆喰や焼瓦、明治以降の遺物が混入するが、下層は江戸時代末期の遺物を包含する。

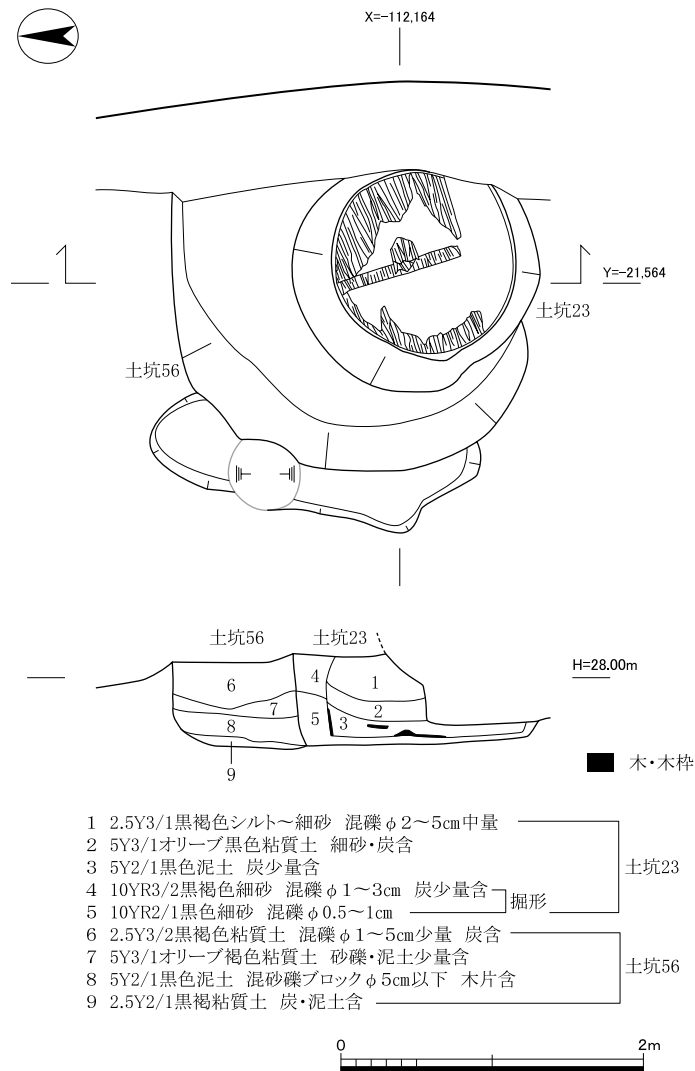
落込44 1区北端で北側へ落ち込む南肩口を見出した。他の肩口は調査区外へ広がる。規模は南北長6.5m以上、幅約1.2m、高さ約0.7mある。江戸時代末期の遺物を包含する。

高まり60 溝43-落込44間で見出した畦状を呈する高まりである。東西は調査区外へ延長する。規模は長さ3.1m以上、幅約2.5m、高さ約0.6mある。芯材となる土層を平たく積み上げ、芯材の南北肩口に沿って斜めに土層を盛る。江戸時代末期の遺物を包含する。

第3面(図12、図版2-1)

水溜遺構(土坑23)、溝、土坑56などがある。

土坑23(図14) 1区中央東端で見出した平面形がほぼ円形の水溜遺構で、南肩口の一部は園池15により削平を受ける。東西1.2m、南北1.0m、深さ0.6mある。桶状の木杵と底板を見出したが、



- | | | |
|---|-----------------------------|------|
| 1 | 2.5Y3/1黒褐色シルト～細砂 混礫φ2～5cm中量 | 土坑23 |
| 2 | 5Y3/1オリーブ黒色粘質土 細砂・炭含 | |
| 3 | 5Y2/1黒色泥土 炭少量含 | 掘形 |
| 4 | 10YR3/2黒褐色細砂 混礫φ1～3cm 炭少量含 | |
| 5 | 10YR2/1黒色細砂 混礫φ0.5～1cm | |
| 6 | 2.5Y3/2黒褐色粘質土 混礫φ1～5cm少量 炭含 | 土坑56 |
| 7 | 5Y3/1オリーブ褐色粘質土 砂礫・泥土少量含 | |
| 8 | 5Y2/1黒色泥土 混砂礫ブロックφ5cm以下 木片含 | |
| 9 | 2.5Y2/1黒褐色粘質土 炭・泥土含 | |

図14 1区土坑23・56実測図(1:50)

腐食が進み原形をとどめない。江戸時代末期の遺物が出土した。

土坑56(図14) 1区中央東端で検出した平面形が楕円形の土坑である。南肩口は園池15、土坑23により削平を受け、東肩口は調査区外へ広がる。規模は東西1.9m以上、南北2.4m以上、深さ0.3mある。江戸時代末期の遺物が出土した。

(3) 2区

第1面(図10、図版1-1)

路面34、土坑1、タタキ2、井戸3・4などがある。

路面34(図版2-4) 2区北端で東西方向を示す路面を検出した。南肩口は攪乱により削平を受ける。東西は調査区外へ延長し、北はさらに広がる。規模は東西5.3m以上、南北0.5m以上、厚さ0.04～0.06m、上面の標高は28.66mある。路面は径0.5～2cm大の礫を土層に含み、硬く叩き締めている。当該地の宅地化に伴い江戸時代末期に敷設された道路と考えられ、明治6年の地籍図⁶⁾に同様の位置に道路が描かれる。

土坑 1 (図15、図版3-1) 2区中央北部で南北方向を示し平面形が長方形の土坑を検出した。掘形の規模は南北2.0m、東西約1.1m、深さ0.7mある。掘形の北寄りに漆喰を用いた枠を構築する。漆喰枠の規模は長さ1.54m、幅0.86m、高さ0.5m、厚さ約0.1mある。漆喰枠内側の東西辺に沿って、上端から約0.2m下に漆喰を用いて受部状の凸部を作り出す。底面に漆喰は張られていない。貯蔵施設であろう。埋土から焼土・炭とともに江戸時代末期以降の遺物が出土した。

タタキ 2 (図16、図版3-2) 2区南端で検出したタタキを伴う漆喰を用いた水利施設で、タタキと溝からなる。タタキは西側及び北東側に一部残存する。西側タタキから連続して東西方向を示す溝が連続し、溝の東は調査区外へ延長する。各処に攪乱や遺構により削平を受け、規模は東西3.7m以上、南北1.2m以上、漆喰厚0.16mある。溝の規模は幅0.4m以上、長さ1.7m以上ある。

宅地内の厨房に関わる水利施設と考えており、次に示す井戸3に付属する可能性がある。

井戸 3 (図17、図版3-3) タタキ 2 に北接して検出した瓦積井戸である。掘形の平面形は楕円形を呈し、北西側に井戸枠を据える。掘形の規模は長径1.4m、短径1.2m、深さ1.57mある。井戸枠の規模は内径約0.7mある。最下部に桶状の木枠を据え、木枠上に枠瓦を3段円形に積む。枠瓦は1周9枚使用する。底面の標高は26.82mある。井戸内には後世に打ち込まれた金属パイプがあり、上部構造に手押しポンプが想定できる。

井戸 4 2区南西端で検出した掘形の平面形が円形を呈する井戸である。掘形の規模は径1.1m、

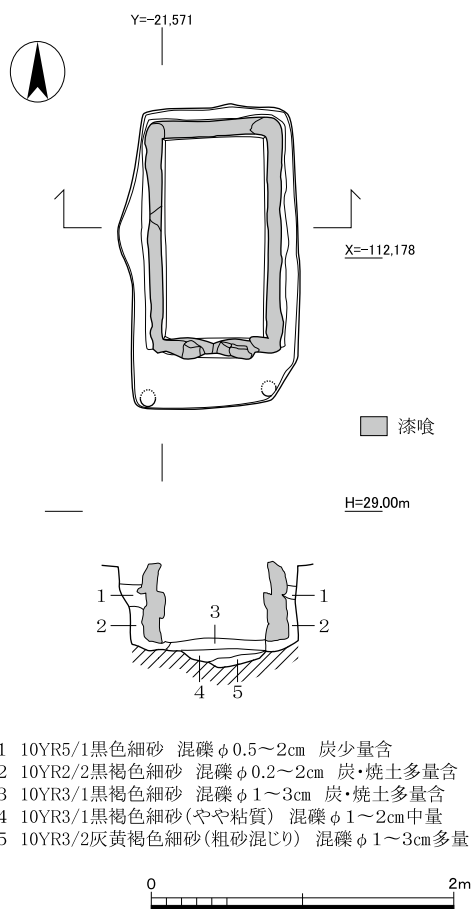


図15 2区土坑1実測図(1:50)

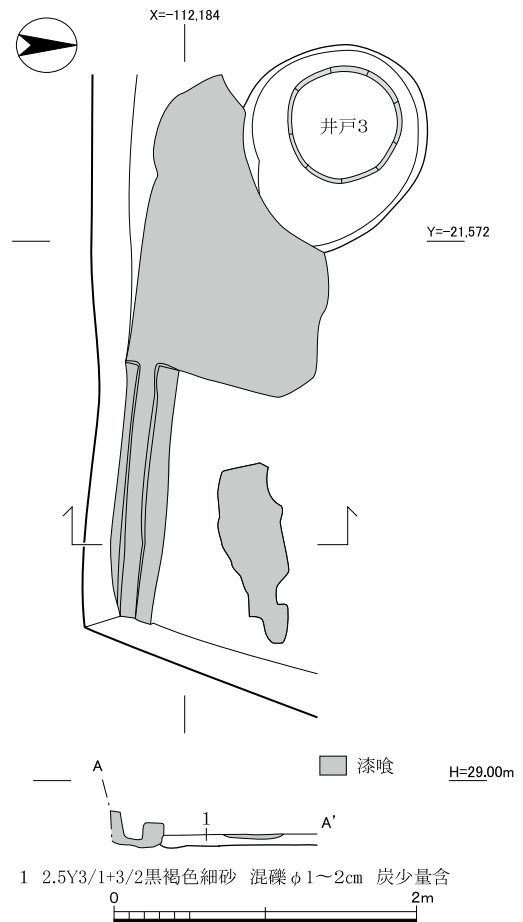


図16 2区タタキ2実測図(1:50)

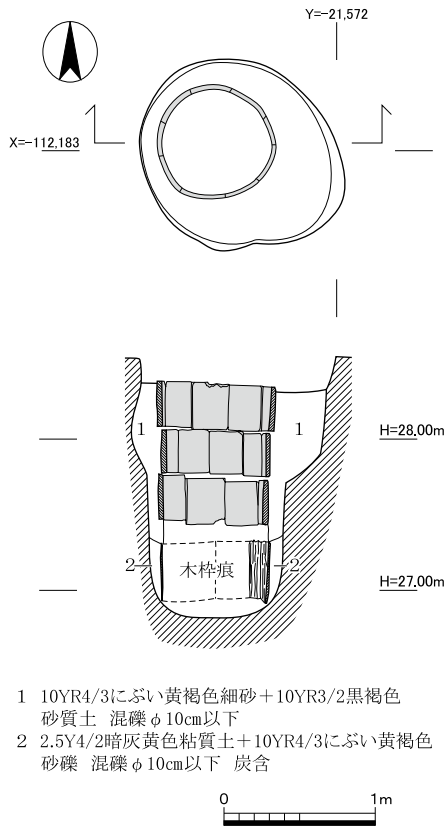


図17 1区井戸3実測図(1:50)

深さ0.92mある。井戸枠は未検出であり、抜き取られたと考える。埋土からは江戸時代末期の土器類が出土した。

第2面(図11、図版1-2)

ピット29、土坑36・40・41などがある。

ピット29 2区中央西端で検出した平面形が円形のピットである。規模は径約0.4m、深さ約0.2mある。江戸時代末期の土器類が出土した。

土坑36 ピット29に東接して検出した平面形が歪な台形の土坑である。規模は長さ0.9~1.1m、深さ約0.6mある。江戸時代末期の土器類が出土した。

土坑40 2区中央東部で検出した平面形が円形の土坑である。規模は径約0.7m、深さ約0.4mある。江戸時代末期の土器類が出土した。

土坑41 土坑40に重複して検出した平面形が方形の土坑である。東肩口は調査区外にある。規模は長軸約2.5m、短軸約1.7m、深さ約0.2mある。江戸時代末期の土器類や瓦が多く出土した。

第3面(図12、図版2-2)

溝37~39、土坑、ピットなどがある。

溝37~39 溝37・39は東西方向、溝38は南北方向を示す溝で、耕作に伴う溝である。規模は幅0.35~0.5m、深さ0.1~0.15mある。溝内からは染付、施釉陶器、伏見人形、泥面子などが出土した。

なお、第3面上では土坑やピット状を呈する窪みが分布するが、大半は耕作土層上面の窪みである。

(4) 補足調査

調査区東の現行道路境界の縁石に沿って南北方向の石列を検出した。

石列(図10・18、図版3-4) 補足調査区の南北長6.7m間で加工石14石を検出した。石列は東側に面を揃える。補足調査区中央付近には水道・ガス管などが埋設され、その間は石が抜き取られる。北半は密に石が並ぶが、南半は石が疎らである。補足調査区東端の標高は29.15m、道路西端の標高は29.12m、石列天端の標高29.06mある。

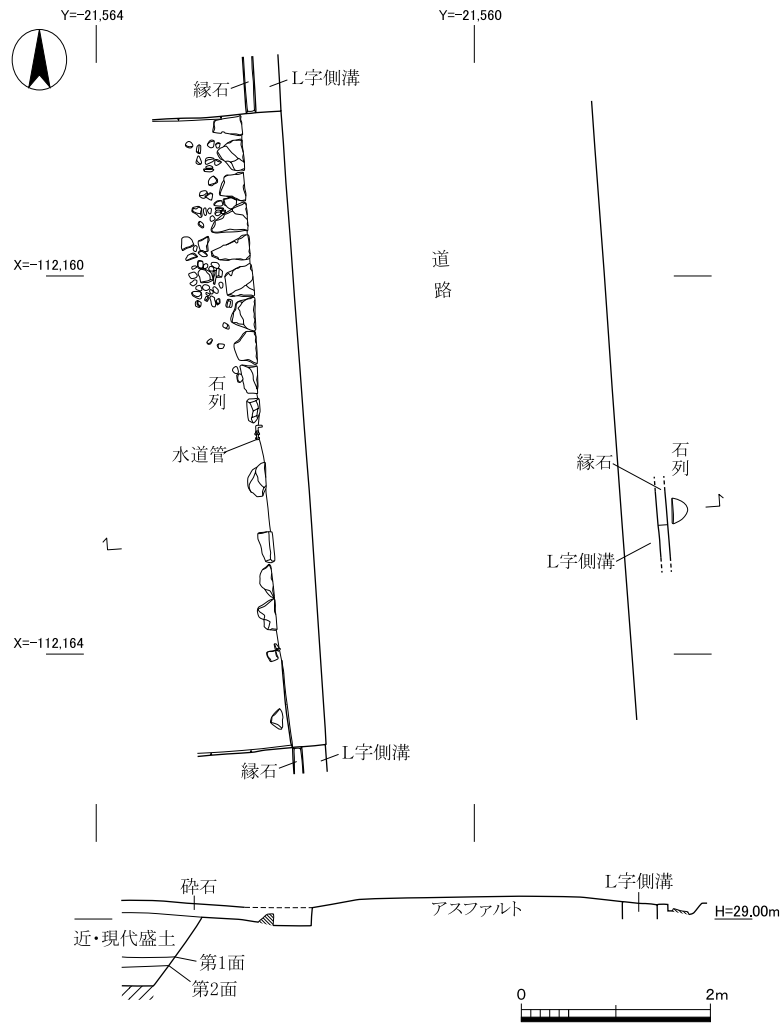


図18 補足調査 石列実測図 (1 : 80)

4. 遺物

(1) 遺物の概要

遺物は、遺物整理箱で41箱出土した。遺物には土器・陶磁器類、土製品、瓦類、石製品、金属製品、木製品、鑄造関係遺物、骨などがあり、大半は土器・陶磁器類が占める。遺物の時期は江戸時代末期から明治時代の18世紀から19世紀に属する。

土器・陶磁器類には土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、染付、磁器、輸入陶磁器などがある。土製品は伏見人形、泥面子などがある。金属製品には銭貨・釘・煙管、石製品には硯・砥石・漬物石、その他、埴塼、骨などがある。

(2) 土器類

園池15出土土器 (図19) 1・4は瀬戸・美濃系の染付である。1は口径8.2cm・器高4.3cmの小椀、4は口径9.3cm・器高4.3cm、型作りの角皿である。2・5～7は肥前系の染付である。2は口径8.6cm・器高5.3cm、広東椀と呼ばれる高台の高い椀。5～7は皿、5は口径10.7cm・器高2.6cm、口縁端部は口鏝、焼継される。6は口径14.2cm・器高4.1cm、蛇ノ目釉剥高台、7は口径18.4cm・器高2.9cm、高台内にハリ支え痕がみられる。3は白磁の筒椀、口径8.2cm・器高7.8cm、焼継される。8は色絵蓋、口径8.8cm・器高2.5cmである。3・8の産地は不明である。9は京焼の角皿、口径7.7cm・器高3.3cm、内面に絵付けされるが、色が退化しているため赤以外の色目は判然としない。底部外面に刻印が押される。10～12は京・信楽系の施釉陶器である。10は行平鍋、口径17.8cm・残存高8.8cm、体部外面にトビカンナを施す。11は水差し、口径18.4cm・器高10.0cm、内面・体部外面上部に施釉される。内面底部に砂目痕が4箇所残る。12は瓶掛、最大径22.4cm・器高20.7cm、底部に3～3.5mmの孔を穿つ。外部全面は黄緑釉で施釉する。内面には煤が付着する。13は焼締陶器、信楽産の播鉢である。口径34.2cm・器高14.2cm、播目は8本単位の櫛目である。内面に重ね焼きの痕跡がみられる。

土坑32出土土器 (図20) 14～18・20は染付、19は色絵である。15・17は瀬戸・美濃系、それ

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
鎌倉時代～室町時代	須恵器、輸入陶磁器				
江戸時代	土師器、染付、施釉陶器、磁器、焼締陶器、土製品、瓦、石製品、骨、埴塼、金属製品		染付17点、施釉陶器20点、赤絵3点、色絵1点、焼締陶器2点、土師質土器1点、埴塼1点、土製品52点、石製品3点		
合計		45箱	100点(5箱)	1箱	39箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より4箱多くなっている。

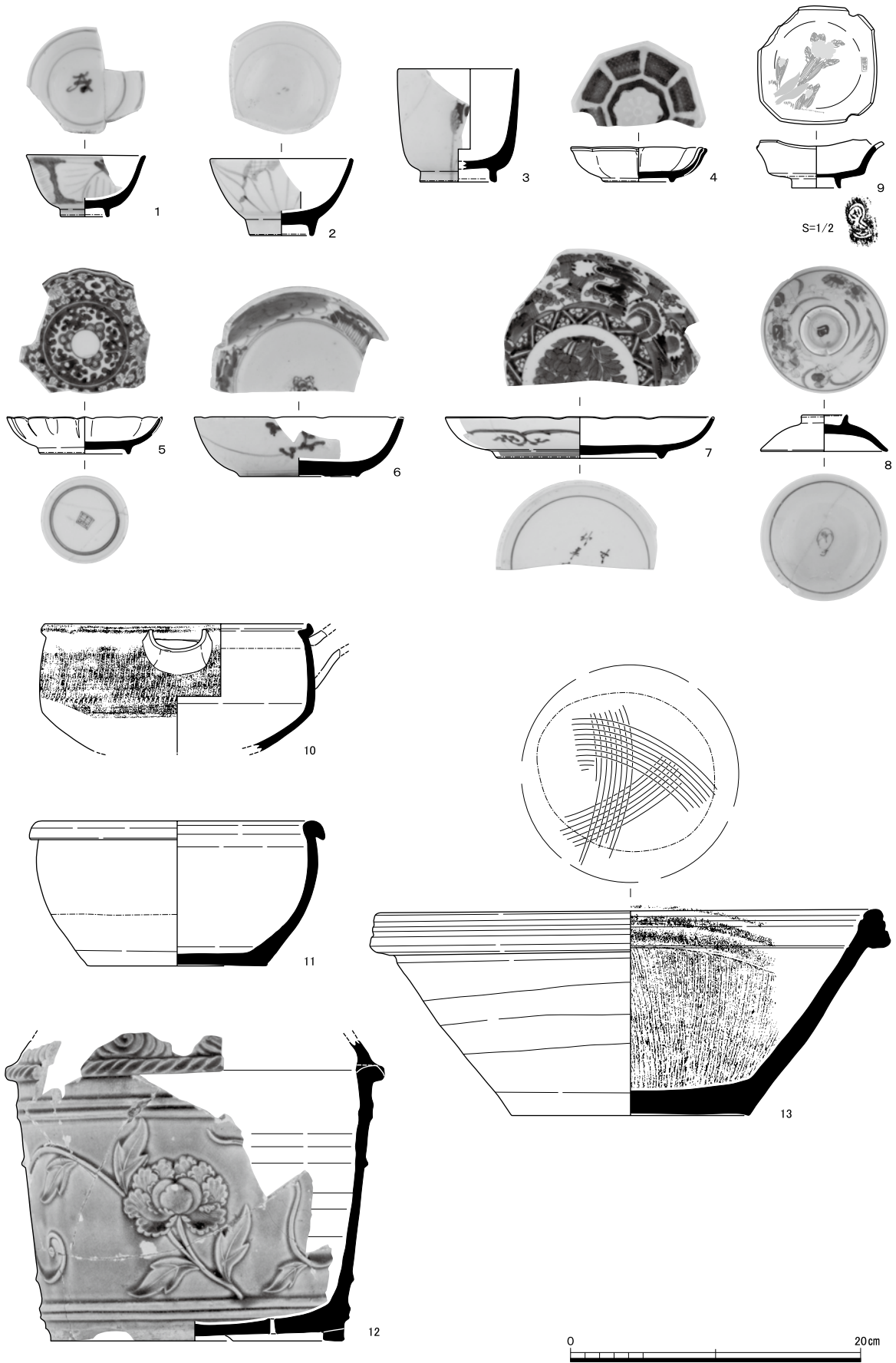


图19 園池15出土土器実測図（1：4）

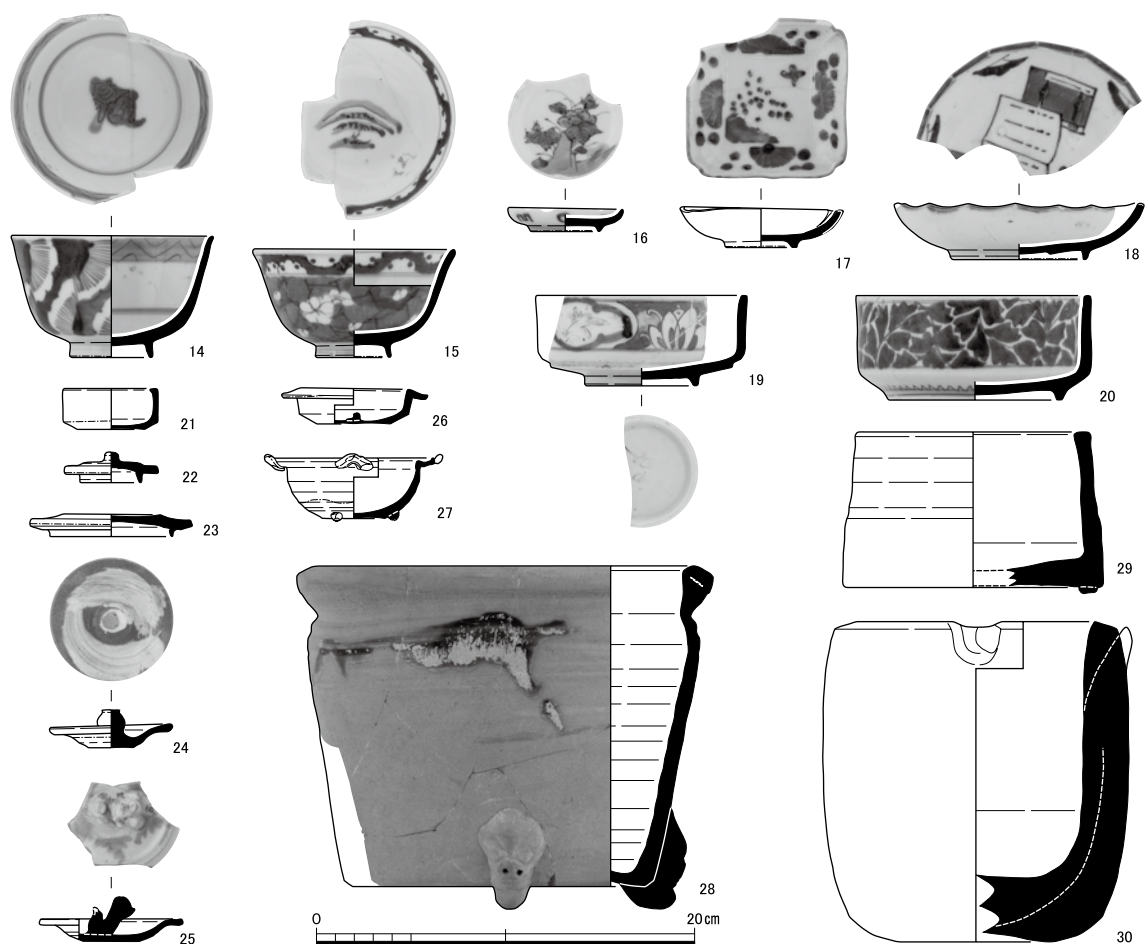


図20 土坑32出土土器実測図（1：4）

以外は肥前系である。14は口径10.6cm・器高6.5cm、15は口径10.6cm・器高4.0cm、端反碗である。16～18は皿、16は口径6.0cm・器高1.3cm、小皿、17は口径8.6cm・器高2.2cm、型作りの角皿、18は口径12.8cm・器高3.0cm、蛇ノ目釉剥ぎ高台、口縁部は鋭角な輪花である。19・20は蓋物身、19は口径11.1cm・器高4.8cm、高台内に赤絵で文字もしくは文様が描かれるが、明確ではない。焼継される。20は口径12.3cm・器高5.5cm、段重の可能性はある。21～27は京・信楽系の施釉陶器である。21は蓋物鉢の身、口径4.9cm・器高2.2cmである。22～26は蓋、22・23は蓋物の蓋、22は口径5.0cm・器高1.6cm、23は口径8.6cm・器高1.2cm、外面に3箇所目痕がみられる。24は口径6.4cm・器高2.0cm、つまみは宝珠型、白釉掛け、25は口径7.6cm・器高2.4cm、つまみは獅子型、呉須で施釉する。26は土瓶のおとし蓋、口径7.8cm・器高1.9cm、鉄釉である。27は鉄釉の小型鍋、口径8.5cm・器高3.4cmである。28は京焼の脚付鉢、口径19.8cm・器高18.2cm、底部は内側に大きく盛り上がる。外面上部に緑釉を施す。脚部は獅子を貼り付ける。29は信楽産の匣鉢、口径13.8cm・器高8.2cm、底部外面に粘土塊が付着する。30は埴塙、口径12.6cm・器高17.0cm、内面に布目痕がみられ、型作りである。口縁部には片口がつく。

溝43出土土器（図21） 31は瀬戸・美濃系の染付碗、口径10.4cm・器高5.8cm、32は肥前系の染付皿、蛇ノ目釉剥ぎ高台、口縁端部は口鑊を施す。33・34は赤絵蓋物の身と蓋、33は口径14.6cm・器高5.8cm、34は口径11.4cm・器高3.9cm、外面は赤・青・緑・黄・金で彩色される。いずれも焼継さ

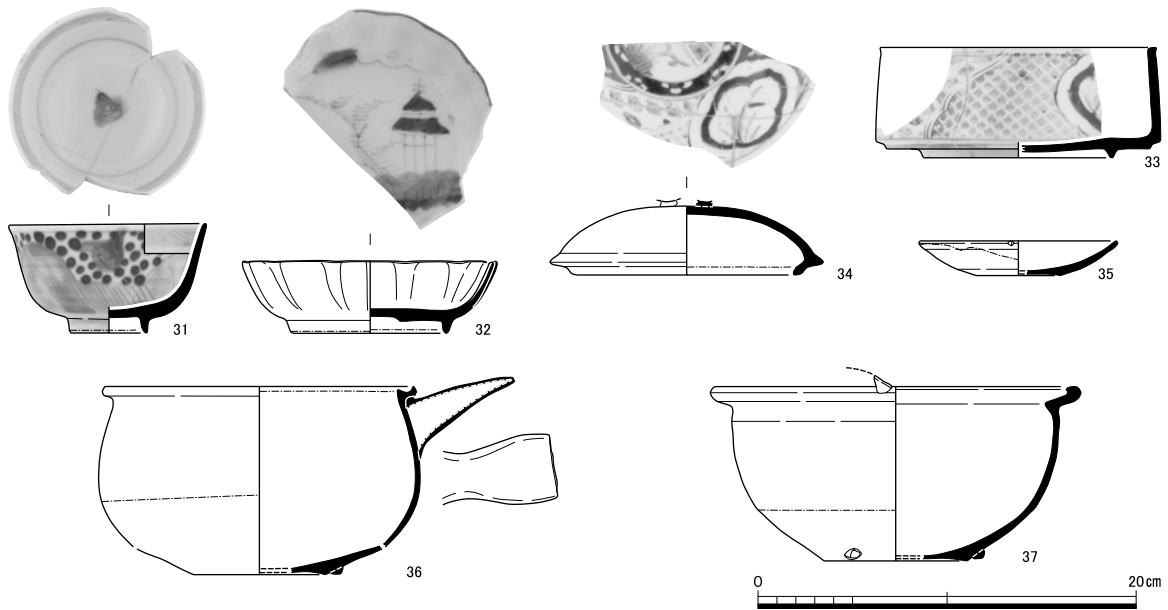


図21 溝43出土土器実測図（1：4）

れている。35～37は京・信楽系の施釉陶器、35は灯明皿受、口径10.4cm・器高1.8cm、36・37は鍋、36は片手鍋、口径16.3cm・器高10.4cm、内面、外面上部に灰黄色の釉が施される。底部は煤が付着する。37は口径19.0cm・器高9.2cm、オリーブ灰色の釉が内面、外面上部に施される。底部は煤が付着する。

その他遺構出土土器（図22） 38は肥前系の染付、広東碗と呼ばれる高い高台が付く器形である。底径6.2cm・残存高4.2cm、焼継されており、高台内に焼継材であるガラスで「二平」と文字が描かれる。39は染付碗の底部、高台内に朱で文字が描かれる。焼継されている。40～44は施釉陶器、40・41は京焼風の肥前系碗の底部、40は底径5.0cm・残存高1.5cm、41は底径4.8cm・残存高1.6cm、見込みに鏝絵で文様が描かれる。いずれも高台内に刻印が押される。42は京焼の碗底部、底径5.0cm・残存高1.7cm、見込みに鏝絵で文様が描かれる。高台内に刻印が押される。43は瀬戸産の筒型甕、鉄釉で半胴甕または銭甕と呼ばれる。底径5.1cm・残存高2.4cm、底部は糸きりの平底、底部

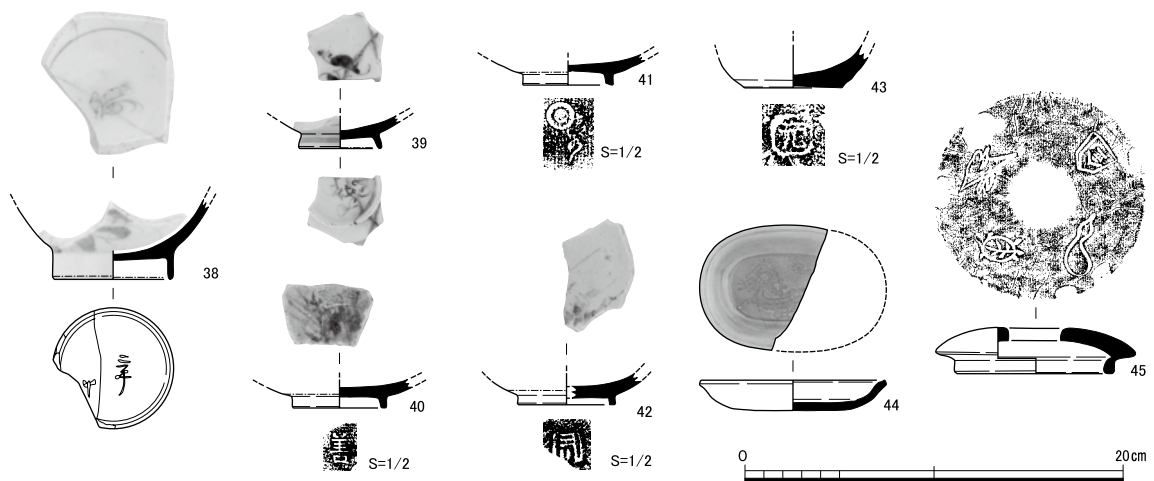


図22 その他遺構出土土器拓影及び実測図（1：4）

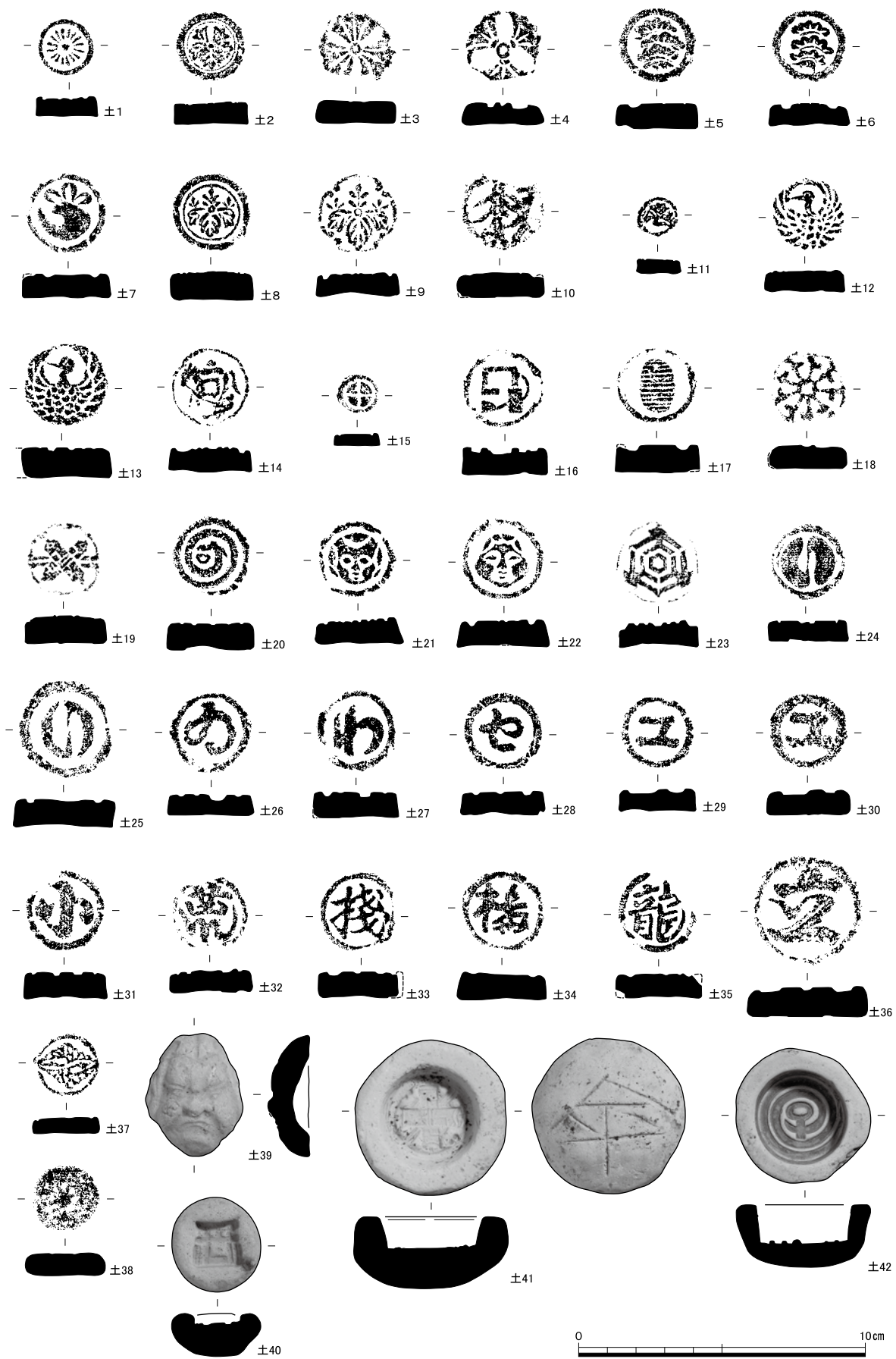


图23 泥面子拓影及び実測図 (1 : 2)

外面に方形の枠内に「元」の文字が刻印されている。44は淡路島の珉平焼、口径9.7cm・器高1.6cmの小判型龍文皿である。型作り成形、底部は平底、目痕が2箇所みられる。内・外面を黄釉で施釉する。45は深草産の土師質土器の手あぶり蓋である。口径8.3cm・器高2.5cm、外面に将棋の駒、瓢箪、亀、鶴が印刻されている。38・42が土坑40、41が土坑23、44が土坑1、45が土坑25、39・40・43は包含層から出土した⁷⁾。

(3) その他の遺物

土製品(図23・24、表4) 土製品には伏見人形、ミニチュア製品、泥面子、型などがある。なかでも泥面子の出土が多く、73点出土した。欠損または遺存状態が不良で文様の判読できないもの、あるいは同文は除いた。ただし、同文でも形状が異なるものは掲載し、表4にまとめた。

土1～38は泥面子である。小型・中型・大型があり、最小径は土11・15の1.6cm、最大は土36の4.2cmである。文様の種類は植物・動物・器物・文字・顔などで、家紋を表すものが多く、歌舞伎の家紋と思われるものもある。

土40～43は土型である。泥面子型が3点(土40～42)、花を模した型が1点(土43)ある。

土39・44～48は伏見人形である。鳩笛・犬・牛・人物などがある⁸⁾。

土49・50はミニチュア製品、土51は玩具の独楽、土52は小壺である。

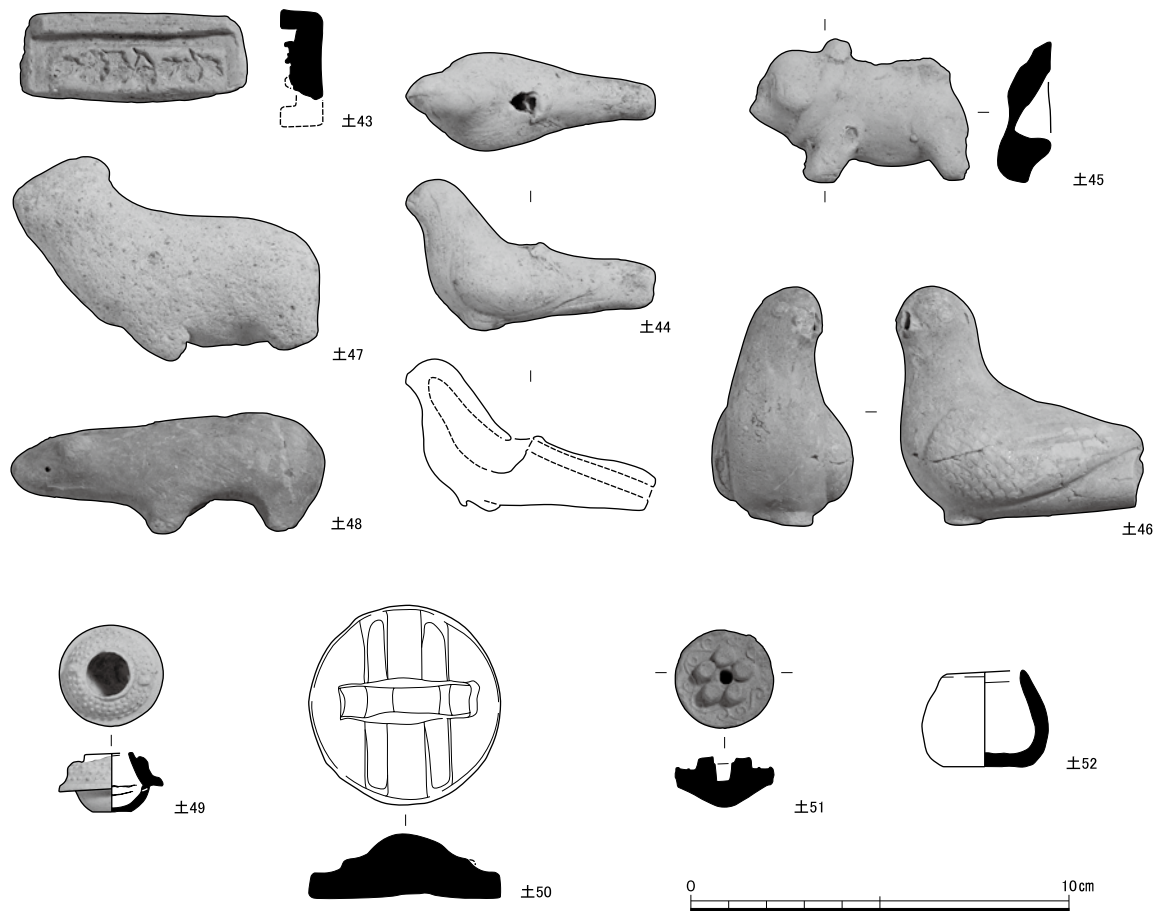


図24 土製品実測図(1:2)

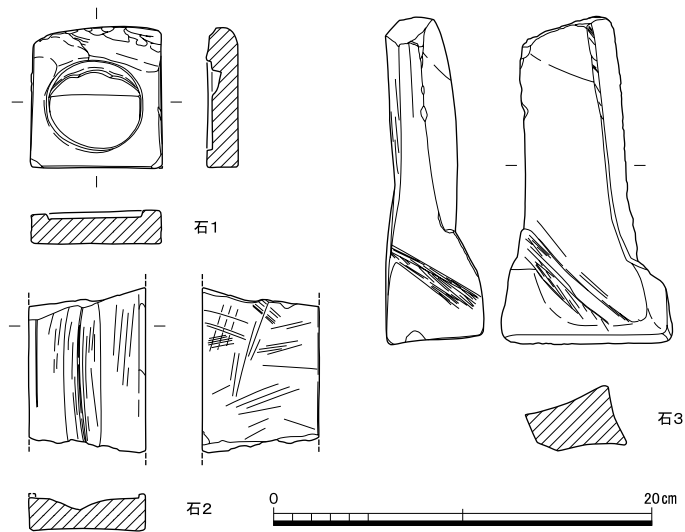


図25 石製品実測図（1：4）

石製品（図25） 石1・2は硯である。石1は幅7.0cm・長さ7.5cm・厚さ1.8cm、径約5cmの円形の中に海部と陸部を作り、海部の先端に輪花を施す。海側を除く3側面には加工を施すが、海側の側面は自然石のままの意匠である。石2は幅6.2cm・残存長8.7cm・厚さ1.95cm、硯面の中央がV字に窪む。硯を砥石に転用したものである。材質は石1・2共に黒色の粘板岩である。石1は重機掘削中、石2は園池15から出土した。

石3は砥石、幅9.0cm・残存長17.3cm・厚さ2.5～5.2cm、4面すべてに使用痕がある。材質は砂岩である。土坑40から出土した。

5. まとめ (図26・27)

今回の調査地点は、平安京内の南東部に位置し、左京八条四坊八町にあたる。元和6年(1621)あるいは寛永元年(1624)に作画されたと推測されている『京都図屏風』、京都大工頭中井家作図の『寛永十四年洛中絵図』(1637)では、調査地点周辺の御土居は現在の五条通の南から七条通まで北東から南西方向に斜めに描かれており、これが豊臣秀吉により築造された当初の御土居であると考えられている。しかし、承応3年(1654)の『新板平安城東西南北町并洛外之図』には「東本願寺新やしき」と七条通の南に東西方向の御土居が描かれている。これ以降の絵図では御土居は、現在の六条通から七条通の南まで南北方向に描かれ、そこから屈曲して西へ向きをかえ、高倉通からさらに屈曲して南へと続く。江戸時代には開口部の新設、土塁の削平や堀の埋め立てなど、徐々にその姿を変えていき、このように付け替えられた箇所もあったと考えられている。

文化財保護課が作成した『京都市遺跡地図台帳』で遺跡範囲としているのはこの付け替え後の御土居の姿である。これらの絵図によって今回の調査区が付け替えられた御土居付近であることがわかる。

第1面の調査で検出した溝43は、調査地点に西接する107調査で検出された土塁南裾に平行する東西溝を延長した位置にある。西壁断面では検出面より上部から成立する近代以降の溝が観察される。明治以降、北側にあった土塁が姿を消し、宅地化されるのに伴い、宅地境界の溝としてその後も利用されていたのであろう。

宅地については、史料には余部村の畑地であった小稲荷の地を、六条村が皮干場として借り受けたこと、その後の天保14年(1843)には、六条村から独立した大西組が立村し、宅地化したことが記されている。調査では自然堆積である砂礫層の上に耕作土層を検出し、居住空間となる前は耕作地であったことが確認された。

また、調査区東端の一部を拡張した結果、南北方向の石列を検出した。当地東側の現南北道路は、七条通から南へ旧高瀬川が大きく西に蛇行していたあたりに合流する。この道路は高瀬川と七条舟入を繋ぐ水路に位置する。「京都惣曲輪御土居絵図」では、この水路が東西方向の土塁の小口間に描かれており、「川巾二間二尺五寸」(約4.35m)の記入がみられる¹⁰⁾(図26・27)。また明治6年作成の地籍図¹¹⁾によると、東西道路

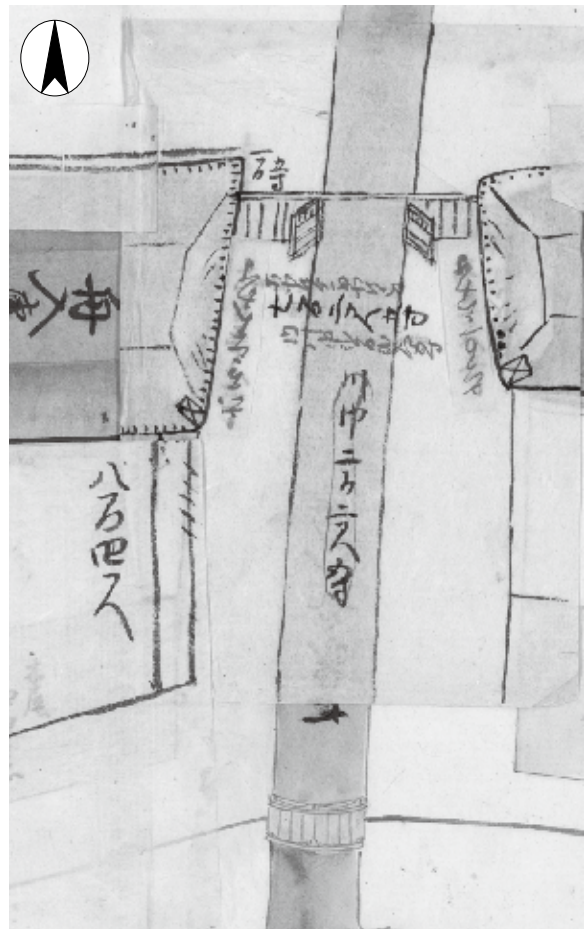


図26 水路付近拡大図(「京都惣曲輪御土居絵図」より)



图27 土塁想定図（1：1,200）（「京都曲輪輪御土居絵図」七卷（odoi7-5~7部分）京都大学総合博物館所蔵）

が東側の水路の「橋」に突き当たり、水路には「小船入川」の記載がみられる。検出した石列から道路を隔てた東側の空き地を観察した結果、同様の石を発見し、両石列の前面間の距離を計測した結果、東西幅約4.2mであった。この石列の間が七条舟入と高瀬川とを繋ぐ水路であり、ほぼ現行の南北道路と重なっていると考えられる。大正元年（1912）頃、鉄道の敷設などのため七条舟入が埋め立てられ、高瀬川と舟入とを繋ぐ水路はその機能を失い、その後埋められ道路となる。

一方、検出した石列は水路の石垣と考えているが、調査区内の江戸時代末期から明治期に相当する第1面の標高が28.6～28.7mあり、石列の標高より低い位置にあることから、当該期に敷設されたのではなく、明治から大正期にかけて宅地側が盛土された後、または水路埋没後に宅地境界の縁石として配された可能性も考えられる。御土居と同様に今後の周辺調査に留意が重要であろう。

註

- 1) 山田邦和「第3章 左京と右京」『平安京提要』角川書店 1994年
- 2) 『京都市の地名』平凡社 1987年
- 3) 石田孝喜「近世初期の洛中絵図に関する考察」(四)・(五)『月刊古地図研究』97号・98号 日本地図資料協会 1978年
- 4) 「4 史料近世1」『京都の部落史』京都部落史研究所 1986年
「5 史料近世2」『京都の部落史』京都部落史研究所 1988年
「京都柳原町史」『日本庶民生活史料集成 第十四巻 部落』三一書房 1971年
山本尚友「六条村小史」『柳原銀行とその時代』崇仁地区の文化遺産を守る会 1991年
- 5) 「上司進達綴」(「京都市編入町村文書」京都市歴史資料館蔵)柳原銀行記念資料館第25回特別展 図録2013年
- 6) 明治6年に提出された地籍図で東山区の今村家が所有している。今村家は江戸時代に柳原庄村の庄屋を務め、近代には戸長をも務めた。中世から近代までの文書を所有している。
- 7) 「九州陶磁の編年 -九州近世陶磁学会10周年記念-」九州近世陶磁学会 2000年
- 8) 六代目丹嘉大西重太郎監修 奥村寛純編著『伏見人形の原型』伏偶舎 1976年
丸川義弘他『平安京左京六条三坊五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-8 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年
布川豊治『法性寺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-19 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
森本勇矢『日本の家紋大辞典』日本実業出版社 2013年
丹羽基二『家紋大図鑑』秋田書房 1971年
- 9) 註4と同じ
- 10) 京都大学博物館より「京都惣曲輪御土居絵図」のデジタルデータの提供を受け、それを元に検討し、合成した。
- 11) 註6と同じ

表4 土製品一覧表

No.	種類	遺構	幅(cm)	高さ(cm)	備考
土1	泥面子	土坑6	径2.2	0.7	家紋、十六菊文
土2	泥面子	第1面掘下げ	径2.6	0.8	家紋、葛文
土3	泥面子	第2面掘下げ	径2.9	0.8	家紋、三つ銀杏文
土4	泥面子	第2面掘下げ	径2.8	0.8	家紋、三つ銀杏文
土5	泥面子	第2面掘下げ	径2.9	0.9	家紋、三階松文
土6	泥面子	土坑41	径2.8	0.8	家紋、三階松文
土7	泥面子	溝39	径3.1	0.8	家紋、丁字文
土8	泥面子	第2面掘下げ	径2.9	1.0	家紋、五三桐文
土9	泥面子	第2面掘下げ	径2.9	0.8	家紋、五三桐文、四環
土10	泥面子	第2面掘下げ	径3.1	0.9	家紋、終文か
土11	泥面子	土坑1	径1.6	0.5	家紋、鶴文
土12	泥面子	第2面掘下げ	径2.8	0.8	家紋、鶴文
土13	泥面子	溝38	径3.4	1.1	家紋、鶴文
土14	泥面子	第1面掘下げ	径2.9	0.9	人馬
土15	泥面子	精査中	径1.6	0.5	家紋、くつわ文
土16	泥面子	第1面掘下げ	径3.0	0.9	家紋、鍵文
土17	泥面子	土坑40	径2.9	1.0	家紋、小判文
土18	泥面子	溝39	径(2.7)	0.8	家紋、源氏車文
土19	泥面子	溝39	径2.9	1.0	家紋、筒文
土20	泥面子	攪乱	径3.1	0.9	宝珠
土21	泥面子	土坑16	径3.2	0.9	顔
土22	泥面子	土坑40	径3.3	1.0	おたふく
土23	泥面子	攪乱	径2.8	0.9	家紋、亀甲文
土24	泥面子	タタキ2	径2.8	0.7	「い」文字
土25	泥面子	第2面掘下げ	径3.5	1.0	「い」文字
土26	泥面子	第1面掘下げ	径3.1	0.8	「の」文字か
土27	泥面子	土坑40	径3.1	0.9	「わ」文字
土28	泥面子	土坑40	径3.0	0.8	「セ」文字
土29	泥面子	土坑23	径2.7	0.8	「ユ」文字
土30	泥面子	溝39	3.1×2.9	0.9	「ユ」文字
土31	泥面子	第2面掘下げ	径3.1	0.9	「小」文字
土32	泥面子	第2面掘下げ	径2.9	0.8	「荒」文字
土33	泥面子	攪乱	径2.9	0.9	「棧」文字
土34	泥面子	第1面掘下げ	径3.1	1.0	「橘」文字
土35	泥面子	溝39	径3.1	0.8	「龍」文字
土36	泥面子	第2面掘下げ	径4.2	1.1	「立」文字
土37	泥面子	第1面掘下げ	径2.4	0.6	菱文か
土38	泥面子	第1面掘下げ	径2.8	0.8	文様不明
土39	伏見人形	土坑18	4.3×3.4	1.5	人面
土40	土型 泥面子	土坑1	3.3×3.1	1.5	鳥居
土41	土型 泥面子	土坑16	径5.4	2.5	筒文
土42	土型 泥面子	園池15	径4.7	2.2	宝珠
土43	土型	土坑1	6.1×2.4	1.1	花文
土44	伏見人形	園池15	6.6×2.6	4.0	鳩笛
土45	伏見人形	園池15	(5.8)×(3.8)	1.4	犬、片面のみ
土46	伏見人形	土坑18	(6.5)×3.7	6.3	鳩
土47	伏見人形	土坑18	8.3×2.7	3.2	牛
土48	伏見人形	土坑18	(8.1)×(3.1)	5.4	牛
土49	ミニチュア	第1面掘下げ	口径1.2 底径1.0	器高1.6	茶釜
土50	ミニチュア	土坑36	5.3×5.1	1.7	釜の蓋
土51	玩具	第2面精査中	径2.6	1.3	独楽
土52	小壺	攪乱	口径2.0	器高2.6	つぼつぼ

圖 版



1 1・2区第1面全景（北から）



2 2区第2面全景（南から）



1 1区第3面全景（北から）



2 2区第3面全景（北西から）



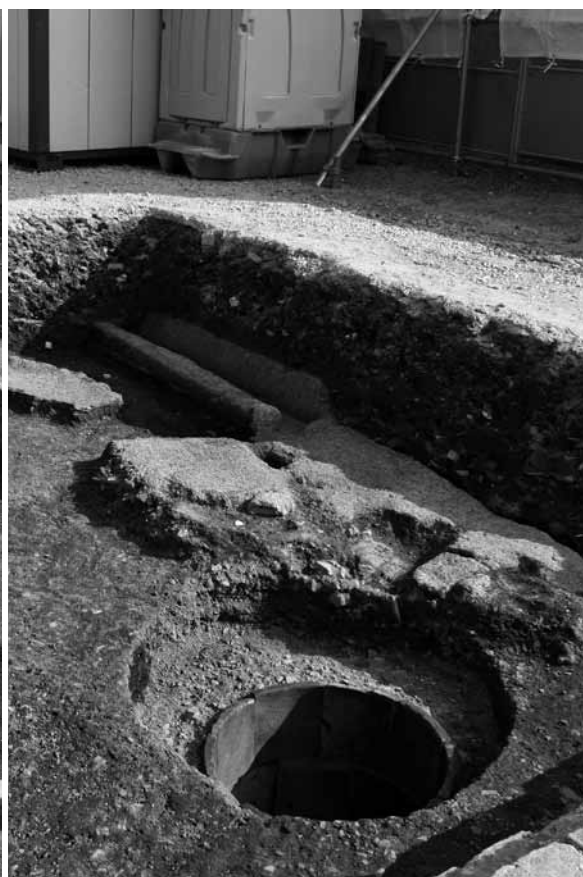
3 1区園池15（北東から）



4 2区路面34（南東から）



1 2区土坑1 (北から)



2 2区タタキ2 (北西から)



3 2区井戸3 (南から)



4 補足調査 石列 (南から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうはちじょうしぼうはっちょうあと・おどいあと							
書名	平安京左京八条四坊八町跡・御土居跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2015-12							
編著者名	近藤 章子							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 おどいあと 御土居跡	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 こいなりちょう 小稲荷町 ほか地内	26100	1 149	34度 59分 19秒	135度 45分 49秒	2015年10月 13日～2015 年11月25日	165㎡	道路整備 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡 御土居跡	都城跡 土塁跡	江戸時代後期	路面、園池、井戸、 土坑、溝など	土師器、須恵器、輸入 陶磁器、施釉陶器、焼 締陶器、土製品、埴塼、 石製品、金属製品、骨				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-12

平安京左京八条四坊八町跡・御土居跡

発行日 2016年3月31日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961